

東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態

—2021 年第 3 回双葉郡住民実態調査—

The Problems of Long-term Refugees from the Nuclear Disaster after the
Accident at TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station
: The Third Survey on the Condition of Residents of Futaba-Area in 2021

丹波 史紀 Fuminori TAMBA

安本 真也 ShinyaYASUMOTO

静間 健人 Taketo SHIZUMA

関谷 直也 Noaya SEKIYA

小山 良太 Ryota KOYAMA

服部 正幸 Masayuki HATTORI

目 次

1. はじめに
2. デモグラフィック
 - 2.1 性別
 - 2.2 年代
 - 2.3 同居人数
3. 仕事
 - 3.1 震災前の仕事
 - 3.2 現在の仕事
 - 3.3 震災前後の仕事の変化
4. 住居
 - 4.1 震災時の住まい
 - 4.2 現在の住まい
 - 4.3 現在の住まいの種類
 - 4.4 元の居住地への帰還意志
5. 健康
 - 5.1 健康状態
 - 5.2 精神的健康状態
6. 経済
 - 6.1 現在の生活のやりくり
 - 6.2 経済的不安
 - 6.3 賠償金の現状
7. 生活

- 7.1 現在の生活で困っていること
- 7.2 生活時間の変化
- 7.3 心配事を聞いてくれた人の存在
- 7.4 行政やメディアへの信頼度
- 8. 復興観
 - 8.1 メディアに対する意見
 - 8.2 復興に関する現在の不安感
 - 8.3 気持ちの変化
 - 8.4 東日本大震災と復興にかんする意識
 - 8.5 復興施策にかんする意識

附属資料（アンケート調査の単純集計）

キーワード：東京電力福島第一原子力発電所事故、原子力災害、放射線、長期避難、悉皆調査

執筆分担：

丹波 史紀	立命館大学産業社会学部 教授	1章、3章、4章
安本 真也	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	2章、6章、8章
静間 健人	東日本大震災・原子力災害伝承館 常任研究員	5章、7章
関谷 直也	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	
小山 良太	福島大学食農学類 教授	
服部 正幸	福島大学食農学類 研究員	

1. はじめに

本稿は、2021年12月に実施した第3回双葉郡住民実態調査の調査結果をとりまとめたものである。2011年東日本大震災における原子力災害において長期避難を余儀なくされた原発被災者を対象にし、避難生活の実態、生活再建上の課題、今後のまちの復興などについて、悉皆調査を行った。本調査は、福島県双葉郡の8町村を対象にし、それらの自治体（広野町・楡葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村）の協力の下に行われた。なお、本調査は、2011年9月実施の第1回、2017年2月実施の第2回に続く3回目の調査である。第2回の調査結果は丹波ほか(2020)¹を参照されたい。

震災から11年目を迎え、被災地の状況は大きく変化している。先行して避難指示が解除された自治体では住民の人口回復が進む一方で、今も帰還困難区域を多くかかえる自治体では人口回復率が伸び悩んでいる。また、これまで住民の立ち入りが厳しく制限されていた帰還困難区域においても、「特定復興再生拠点」などの指定がなされ、役場機能の回復や一部住民の帰還する条件も生み出された。こうした被災地の状況が大きく変化している状況において、被災しかつ避難を余儀なくされた住民の生活や住まい、健康などの実態はどうなっているのか。また今後の双葉郡の地域復興にとって重要なことはなにか。

本調査の目的は、震災から10年が経過した現状の実態を把握することを主眼に置いている。そして、何よりも被災された住民の生活復興をめざし、さらには今後の復興政策のカギとなるテーマについて課題を析出することが本調査を通じて目指すねらいでもある。

調査概要は下記の表1.1の通りである。

調査対象者は原子力災害における被災地である双葉郡8町村（双葉町・大熊町・浪江町・富岡町・楡葉町・広野町・川内村・葛尾村）に2011年3月時点において居住していた世帯である。ただし避難過程で世帯分離が進み、住民基本台帳上の世帯と実際の居住実態が異なる場合も少なくないことから、実際の居住実態に応じ調査した。

調査は各町村協力のもと、対象全世帯に個別で郵送し、郵送で回収を行った。なお、葛尾村、大熊町は町村が配布する広報紙に同封して送付した。発送数は27,186数、回答数8,295数（回収率30.5%）であった。町村ごとの回収率は表1.1を参照されたい。なお、第1回調査では、発送数28,184数、回答数13,576数（回収率48.2%）、第2回調査では広野町を除く7町村の世帯を対象とし、発送数26,582数、回答数10,013数（回収率37.7%）であった。なお、集計において、性別・年齢・元の居住地の全てが書かれていないものは無効票とした。調査票は2021年12月2日より翌2022年3月15日まで回収を行った。

¹ 丹波史紀・佐藤慶一・サトウタツヤ・清水晶紀・関谷直也・廣井悠・除本理史・安本真也，2020，東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2017年第2回双葉郡住民実態調査—，東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編，No. 36，pp. 1-65.

表 1.1 調査概要

調査対象	東日本大震災発生当時、双葉郡に居住していた全世帯	
調査方法	郵送調査（各町村協力のもと、対象全世帯に個別発送）、郵送回収 ※葛尾村、大熊町は広報紙に同封	
標本抽出手法	悉皆調査	
調査主体	立命館大学、福島大学、東京大学	
有効回答	全体	8,295 件／27,186 件（回収率 30.5%）
	広野町	460 件／ 1,546 件（回収率 29.8%）
	楡葉町	761 件／ 2,272 件（回収率 33.5%）
	富岡町	1,835 件／ 6,229 件（回収率 29.5%）
	川内村	222 件／ 1,100 件（回収率 20.2%）
	大熊町	1,149 件／ 4,900 件（回収率 23.4%）
	双葉町	963 件／ 3,155 件（回収率 30.5%）
	浪江町	2,756 件／ 7,347 件（回収率 37.5%）
	葛尾村	121 件／ 637 件（回収率 19.0%）
調査期間	2021 年 12 月 2 日（木）～2022 年 3 月 15 日（火）	

本調査にあたり、協力くださった双葉郡の自治体に感謝申し上げるとともに、何よりもご回答くださった皆様に感謝申し上げます。

なお、本調査研究は、文科省科研費基盤研究（B）を活用し調査した。同調査研究は、「原子力災害にともなう被災者の生活再建に関する調査研究」（課題番号：20H01604）の研究成果の一部である。

2 デモグラフィック

本章ではデモグラフィックについて、町村ごとで分析を加える。性別、年代、同居人数の変化についてみていく。

2.1 性別

回答者の男女比は、全体で見ると、男性 69.5%、女性 29.8%であった（無回答 0.8%）。各自治体別も同様の傾向であり、男性が 70%前後の割合であった。各自治体別の男女比は図 2.1 の通りである。なお、今回は前回までとレイアウトを若干、変更したこともあり、無回答の割合が減少している。

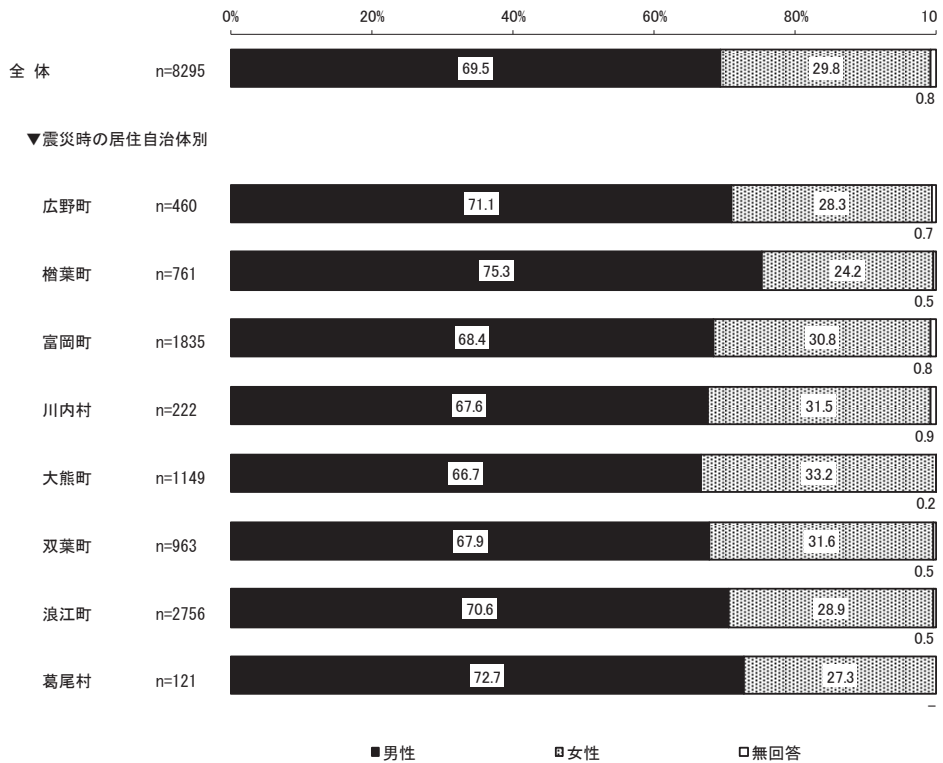


図 2.1 性別

2.2 年代

回答者の年代は図 2.2 である。なお、この年代については、2021 年 12 月 1 日時点のものを問うている。全体についてみると、20 代以下が 1.0%、30 代 3.4%、40 代 8.5%、50 代 13.1%、60 代 28.2%、70 代 28.5%、80 代 13.4%、90 代以上 2.6%、無回答 1.3%であった。最も多い世代は、70 代であった。自治体別にみると、大熊町、富岡町、双葉町では比較的、回答者に 50 代以下が多い。一方で川内村は 8 割以上が 60 代以上という結果であった。

なお、第1回目の双葉郡調査では、20代以下が4.2%、30代10.7%、40代13.6%、50代23.4%、60代24.7%、70代以上22.8%、第2回目は20代以下が1.4%、30代5.8%、40代10.1%、50代16.0%、60代31.1%、70代21.4%、80代11.4%、90代以上1.7%、無回答1.2%であった。調査を重ねるごとに年齢層が高くなる傾向が明らかである。

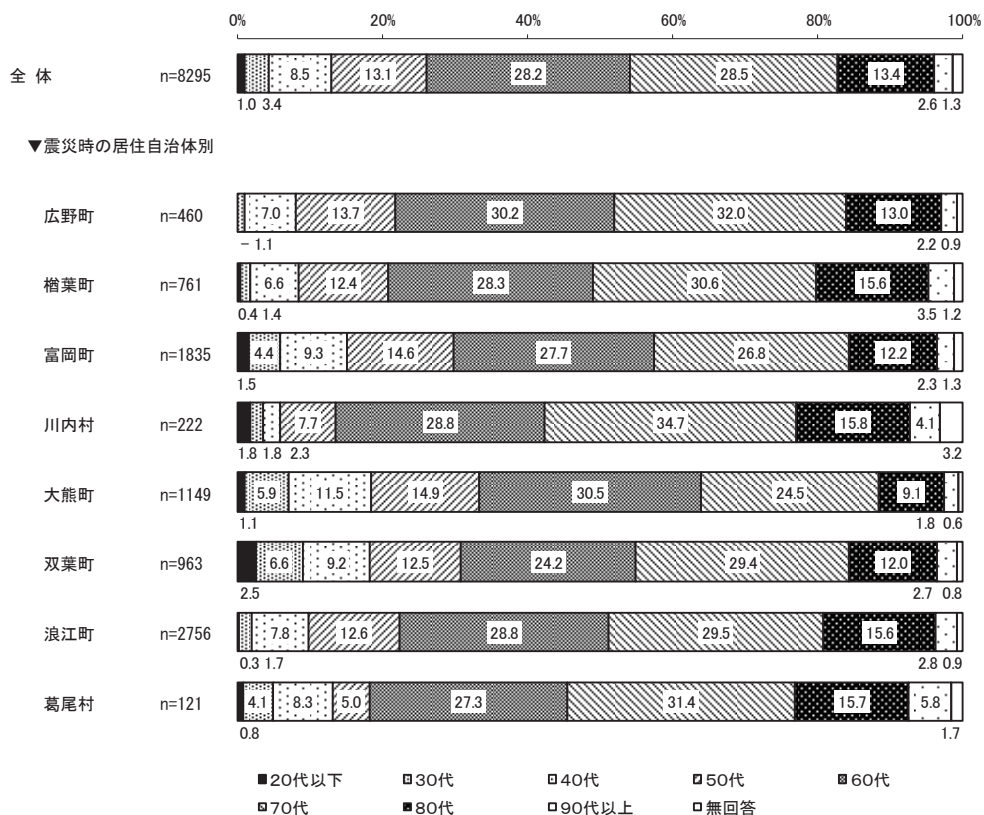


図 2.2 年代

2.3 同居人数

被災前に同居していた人数（本人を含む）について問うた結果が図 2.3 である。平均値は3.4人であり、無回答は1.3%であった。62.8%が3人以上で同居していると回答していた。自治体別に平均値をみると、葛尾村が4.1人と突出して多い結果であった。

では現状はどうか。現在の同居人数（本人を含む）について問うた結果が図 2.4 である。平均値は2.5人であり、無回答は2.5%であった。一人暮らしが全体の21.0%と震災前よりほぼ倍増の21.0%であり、3人以上で同居しているのは37.4%と大幅に減少している。自治体別にみると、いずれも単身世帯または二人暮らしが半数以上を占めている状況が明らかである。

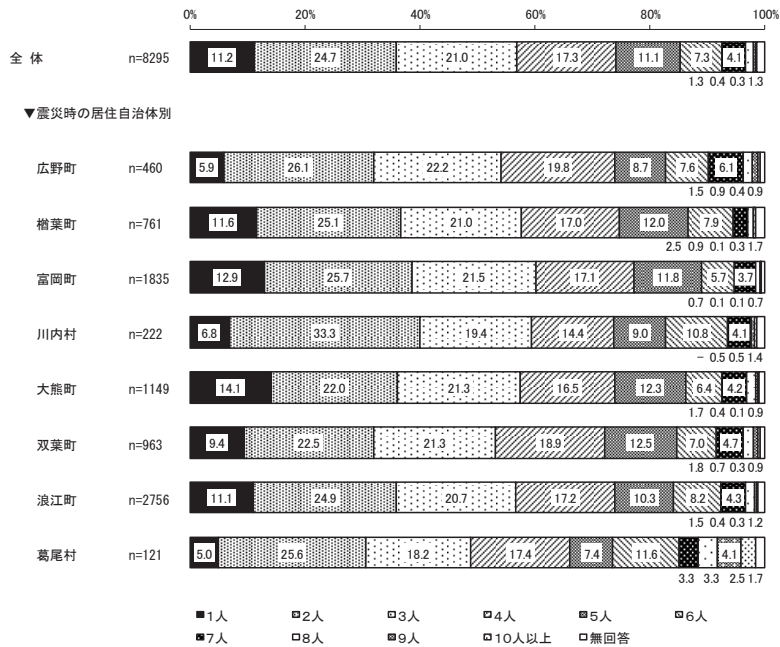


図 2.3 震災前の同居人数

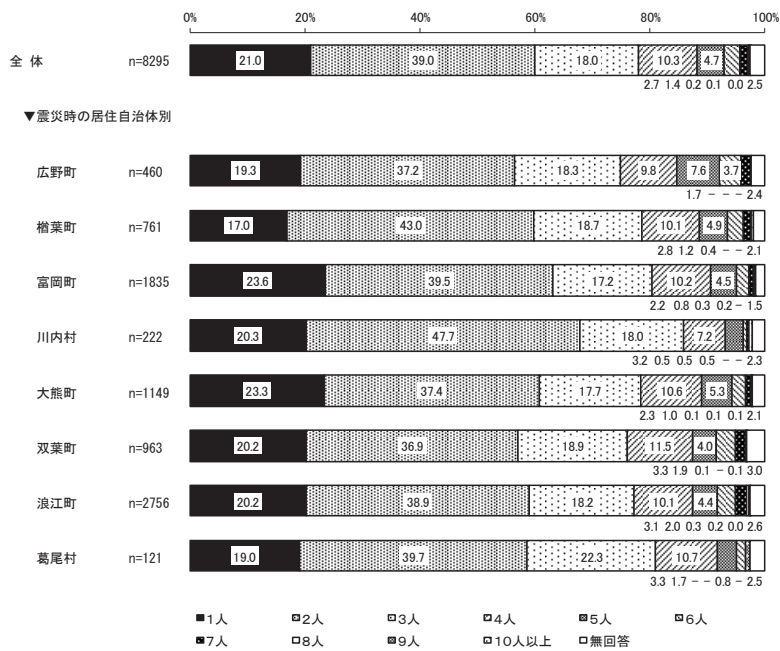


図 2.4 調査当時の同居人数

3 .仕事

本章では双葉郡の住民の仕事の現状について分析を行う。

3.1 震災前の仕事

震災前の仕事について、職業上の地位について問うたところ、図 3.1 の結果となった。全体では、38.2%が「正規の職員・従業員」であり、次いで多いのが「無職（主婦・主婦を含む）」が 27.6%、「自営業主（自由業を含む）」が 11.5%などと続いた。町村別にみると、葛尾村・川内村で「自営業主（自由業を含む）」が多く、それぞれ 21.5%、17.6%となっていた。

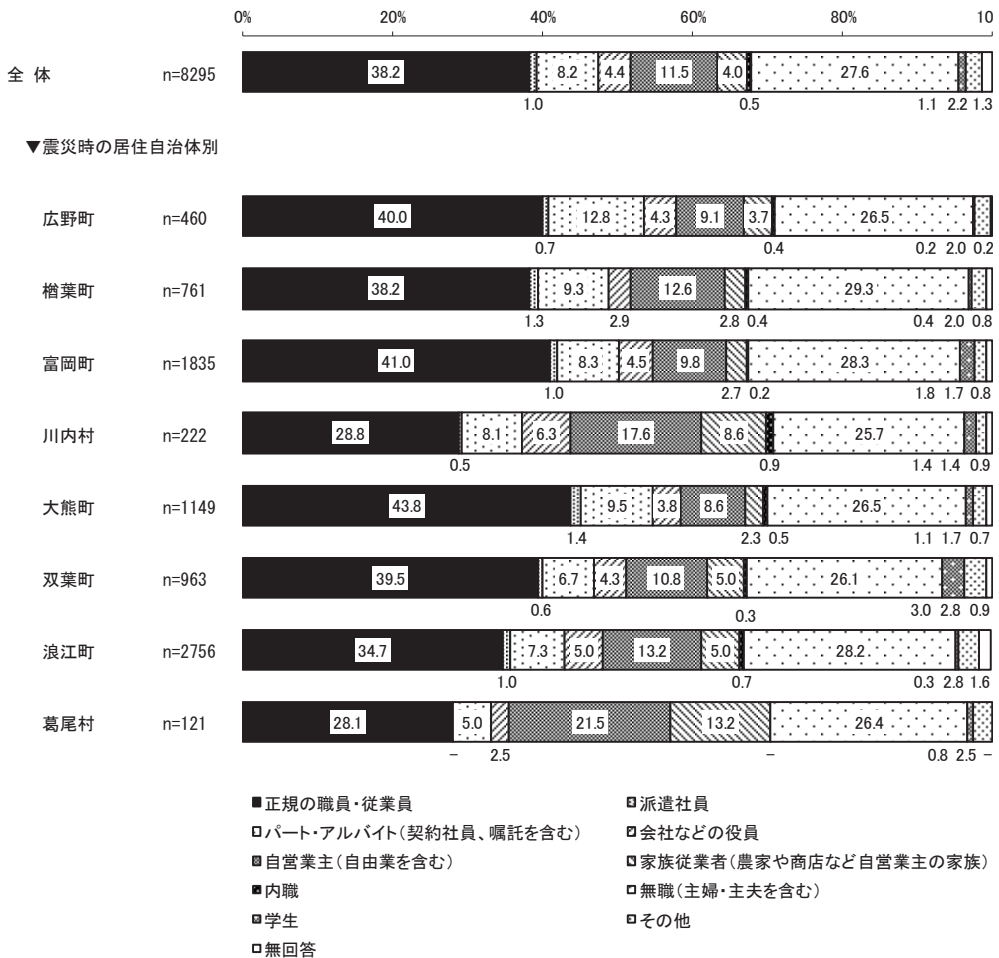


図 3.1 震災前の職業上の地位

これを図 3.2 のように業種でみると、「自営業主（自由業を含む）」が多かった葛尾村や川内村では、「農林漁業」が多く、それぞれ 36.5%、25.2%となっていた。どの町村でも

「建設業」は2割前後存在していた。また「サービス業」も各町村2割近く存在していた。

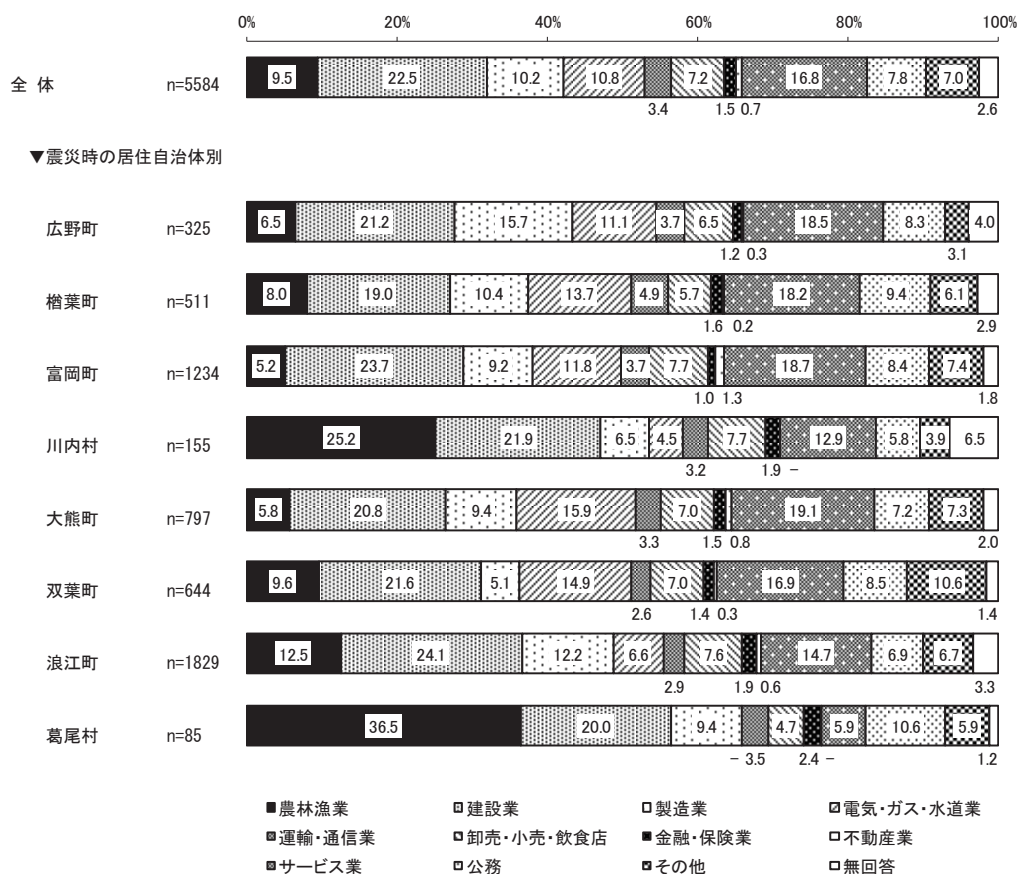


図 3.2 震災前の仕事の業種

3.2 現在の仕事

現在の仕事の状況を確認したところ、図 3.3 のようになった。全体として、最も多かったのは、55.4%の「無職（主婦・主夫を含む）」であり、次いで「正規の職員・従業員」19.0%、「自営業主（自由業を含む）」8.4%と続いた。川内村・葛尾村で「自営業主（自由業を含む）」が他町村に比べ若干多い傾向にあったが、全体としての傾向は各町村同様の傾向がみられた。

特に町村ごとに特徴があらわれたのは、現在の仕事の業種であり、葛尾村の 35.1%、川内村の 33.9%が「農林漁業」と高い傾向がみられた（図 3.4）。

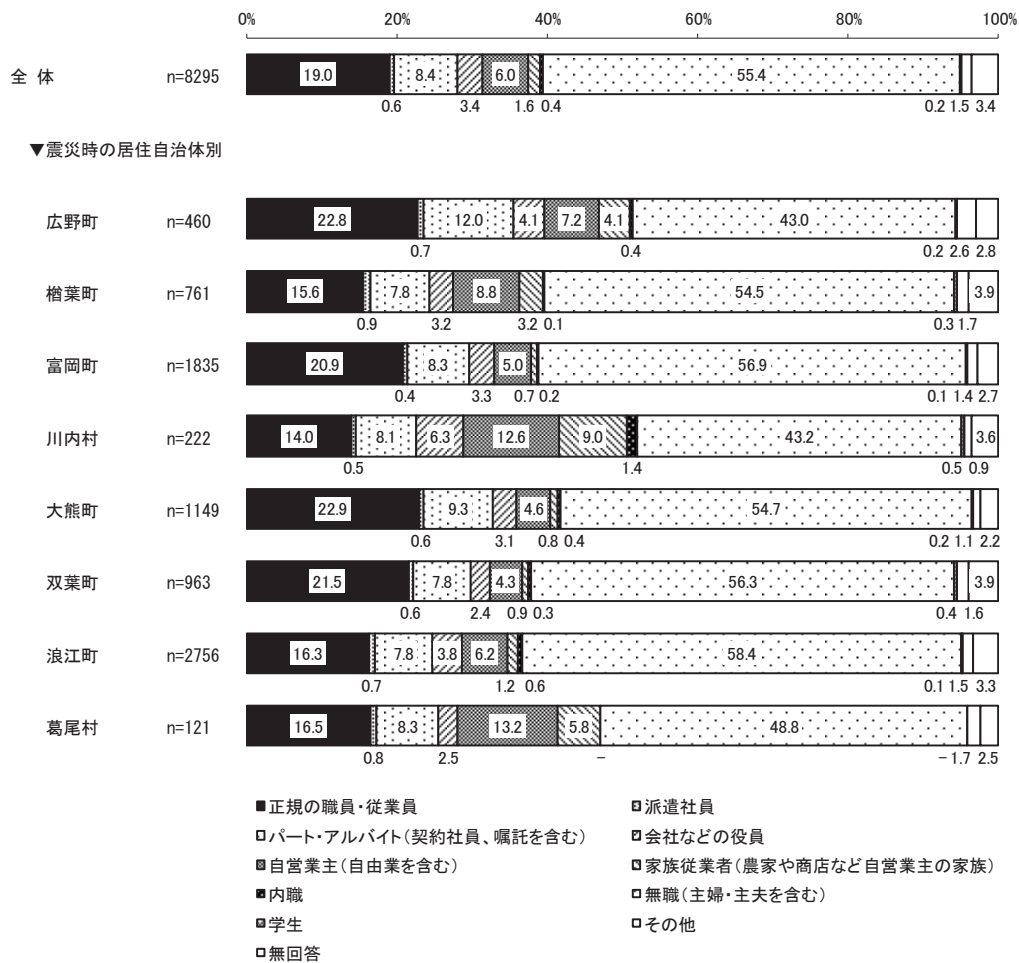


図 3.3 現在の職業上の地位

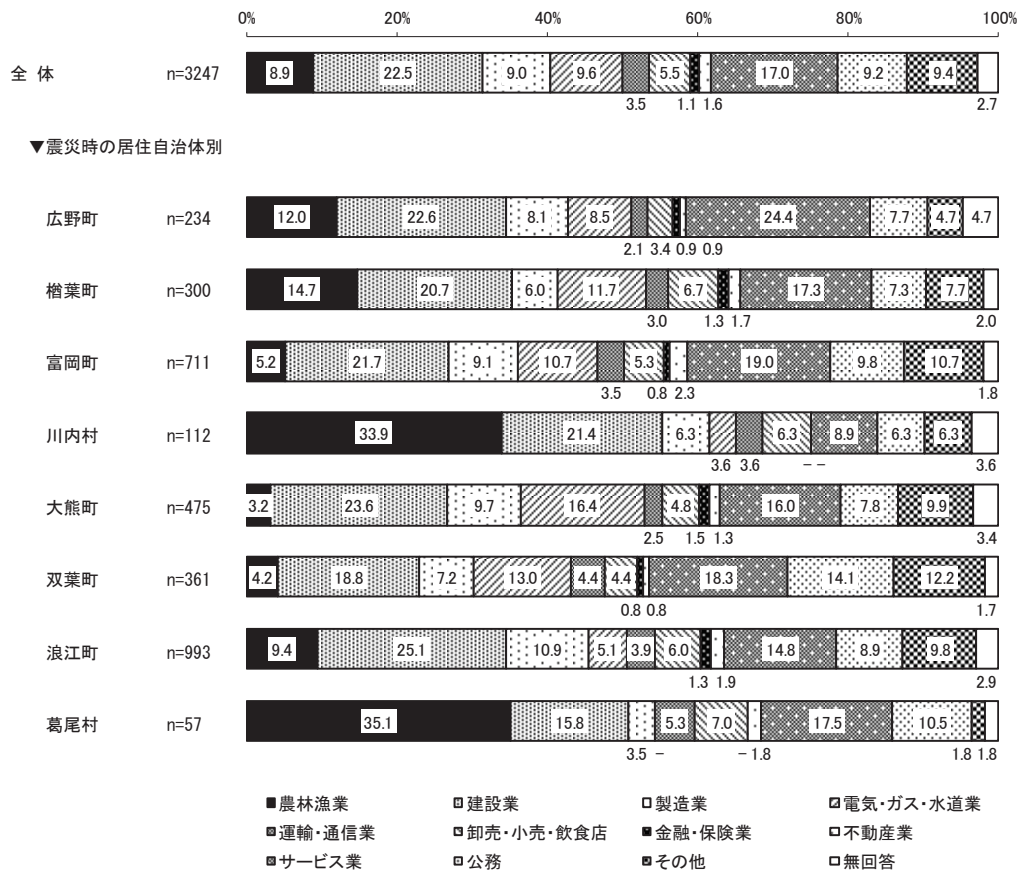


図 3.4 現在の職業の業種

3.3 震災前後の仕事の変化

震災前後で仕事における変化がみられたのか。調査全体として、「無職（主夫・主夫を含む）」の割合が顕著に多くなっていた。その人数は 4,598 人である。このうち、65 歳未満の者は 790 人であり、65 歳以上の者は 3,768 である（無回答 40 人）。ちなみに性別でみると、男性が 2,978 人、女性が 1,602 人である（無回答 18 人）。震災から 10 年が経過し、回答者の高齢化が進んだことを要因にして、「無職（主婦・主夫を含む）」が顕著に多くなっていた。

一方、生産年齢人口の一定割合においても「無職（主婦・主夫を含む）」が存在している。年代別にみると、30 代未満の 10.3%、30 代の 20.2%、40 代の 14.7%、50 代の 20.7%が「無職（主婦・主夫を含む）」であり、生産年齢人口の一定割合が依然として非就業の状態にあった（図 3.5）。

「無職」であるという状態にはいくつかの要因が考えられる。例えば、日本では子育て

て中の女性が一時的あるいは永続的に以前就いていた仕事から離れ、主婦になるケースも想定される。調査のしごとに関する設問では、「無職」には、「主夫・主夫を含む」としており、一定割合が存在することが想定される。

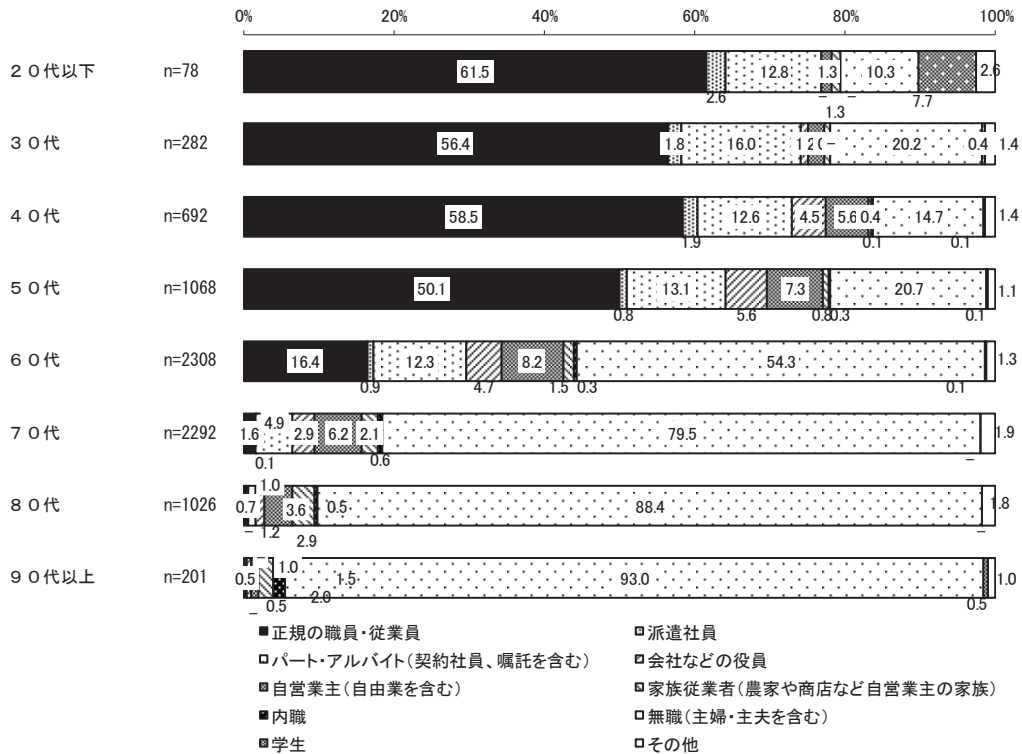


図 3.5 年代と現在の職業上の地位によるクロス

ただし、調査結果をみると、それだけでは説明できない実態が浮かび上がる。例えば自由記述には、震災から 10 年を経てもなお様々な生活上の課題をかかえていることがうかがえる。

避難中に病状が悪化して、心身疲れました。帰還した現在、避難先で震災前の仕事をさせていただけたんですが、こちらではその機会はなくなり無職となり、やはり慣れた仕事、仲間がない状態、失望からでしょうか、今まで心にしまっていたものがおさえられなくなってしまったのでしょうか、帰れない身内(家族)の庭・土地の手入れ、保つための助ける事にも疲れ、夫は重度のうつにかかってしまいました。心の病気です。「死にたい」と言われるつらさ、ささえなきやとがんばらなきやならない気持ちを保つこと、今までの自分の対応の反省、仕事を手ばなせてしまった反省、ずっと自分をせめる日々本当に帰ってきて良かったのか。夫は

あの10年前にできてた仕事、仕事仲間、知り合いを失ったのがつらいんだという気がしません。(40代女性)

東日本大震災・原発事故により、生まれ育った土地や住居、故郷を奪われ、長期にわたる避難生活を余儀なくされた。それに伴い精神疾患の悪化により仕事も失ってしまった。自宅で悠々自適に長生きの出来るはずだった母を避難先の病院で亡くし、自分自身も長年の避難生活、生活習慣と精神的ダメージのため病気を患い、年々多種大量の薬を服用するようになってしまった。また、この10年の間には家族の仕事上の理由で離散生活となり大変寂しく苦しい忘れられない思いや経験をした。住んでいた住宅は雨漏りのせいで天井や床が落ち、宅地は雑草が繁茂し、更にはイノシシが傍若無人に暴れまわり家財は荒らされ、住宅の荒廃は益々著しい。避難先では付き合いも淡泊である。(50代男性)

どんなに時間が経過しても、賠償されても、復興が進んでいても、2011年3月11日からの震災や原発事故で失ったものは戻らないし、仕事、人間関係、住居など、全てを問題なく精算できたわけでは無い。会社へは3/11避難した直後から一度も顔を出さず気まずい気持ちのまま退職に至り、又、人間関係も同じようにあの日から一度も会えぬまま亡くなってしまった人もいる。住居も、3/11当時のまま片付けもできず荒廃している。色々な事が中途半端なままで、これからも後悔の気持ちと共に生きていく事となると思うと、辛い気持ちはずっと残ったままだ。(30代女性)

自由記述を読み取ると、長期にわたる避難生活の中で、家族やしごとをなくし、避難先での近隣関係も希薄で、心身の健康を害している家族が非常に多いことがうかがわれる。もちろんそれは本人ではなく、原子力災害とそれにとまなう避難生活という過酷な環境が大きく影響していると言える。

WHO-5の精神的健康状態との比較でみると、64歳以下は、就業者の平均値は12.5に対し、非就業者は10.6であった(図3.6)。一方、65歳以上の就業者は平均値12.1に対し、非就業者は10.3となっていた(図3.6)。64歳以下、65歳以上ともに、就業者よりも非就業者の精神的健康度は悪いことがわかる。

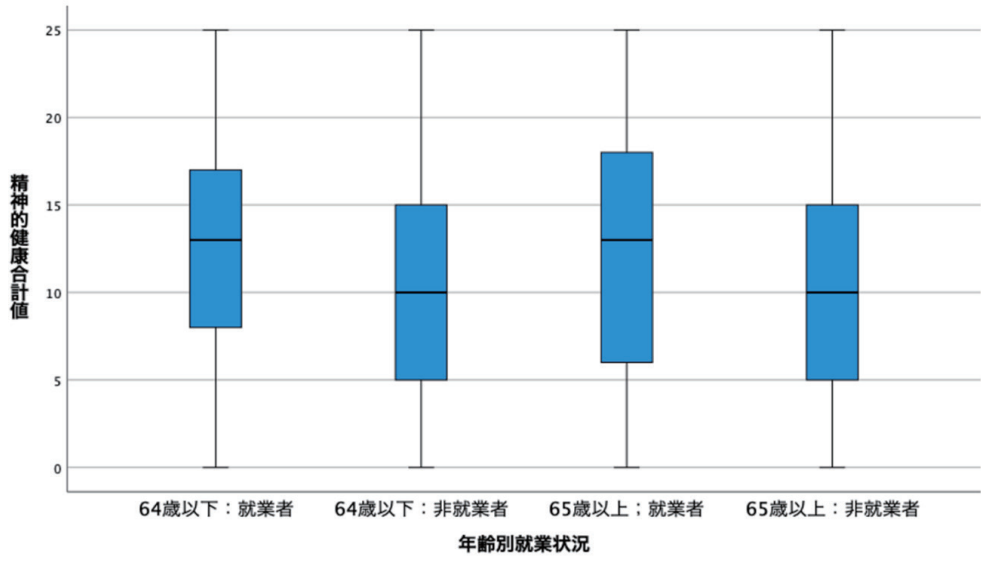


図 3.6 年齢・就業別精神的健康合計値

4. 住居

本章では、住まいの現状と元の居住地への帰還意志について分析する。

4.1 震災時の住まい

震災時の住まいを示したものが図 4.1 である。ここでは震災時に双葉郡に住んでいなかった人はおらず、浪江町が 32.2%、富岡町が 22.1%、大熊町が 13.9%と続いた。

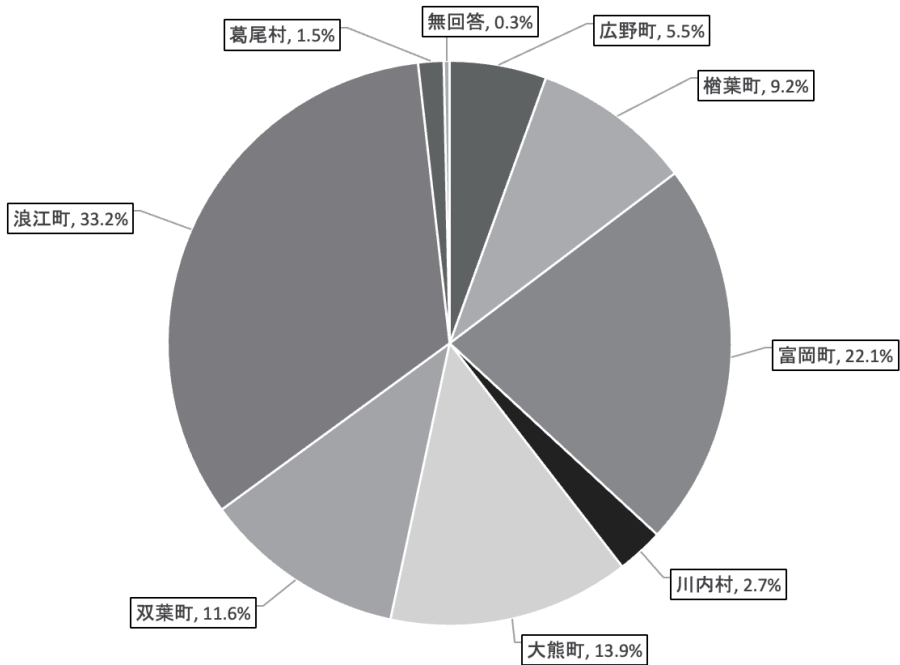


図 4.1 震災前の居住地

4.2 現在の住まい

現在の住まいについて、「現在、あなたはどこにお住まいですか」と問うたのが、図 4.2 である。全体として、「震災時に住民票のあった自治体」が 21.5%、「震災時とは異なる福島県内の自治体」が 55.3%、「震災時とは異なる福島県外の自治体」が 21.5%であった。

自治体別にみると、状況に大きな相違がある。ほとんどの住民が「震災時に住民票のあった自治体」に現在住んでいると回答したのは、川内村 96.4%、広野町 94.3%であった。次いで多かったのは、檜葉町 54.1%、葛尾村 39.7%と続いた。逆に、「震災時に住民票のあった自治体」と回答したのが少なかった町村は、双葉町 0%、大熊町 5.7%、富岡町 12.0%、浪江町 14.1%であった。避難指示解除の時期が早期であった町村ほど震災時に住民票の自治体に住む者が多いことが確認できる。

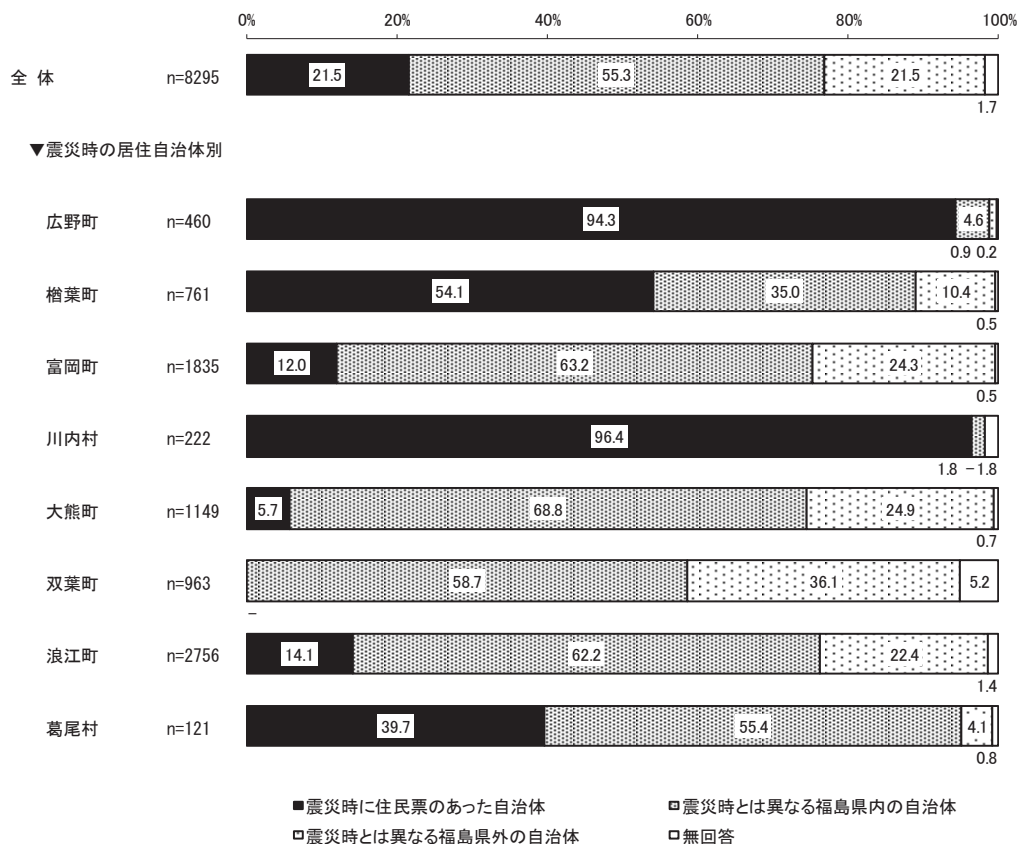


図 4.2 現在の居住地

また、これを福島県内外でみたのが、図 4.3 である。全体として、76.8%が現在の住まいを「福島県内」におき、「福島県外」は 21.5%であった。多くの者が福島県内に住んでいることが確認できるが、町村によって多少の違いがみられる。福島県外に住む者が多いのは、双葉町 36.1%、大熊町 24.9%、富岡町 24.3%、浪江町 22.4%であった。また、震災時の住居に住んでいるかどうかという問いに対しては、図 4.4 のように、全体として、83.3%が「震災時の住居に住んでいない」と回答し、「震災時の住居に住んでいる」は 15.3%にとどまった。川内村や広野町など比較的早期に避難元の自治体にもどった自治体は、元の住居に住んでいる割合が高い一方で、帰還困難区域などを多くかかえる双葉町や大熊町、あるいは富岡町や浪江町では、「震災時の住居に住んでいない」と回答する者が多かった。

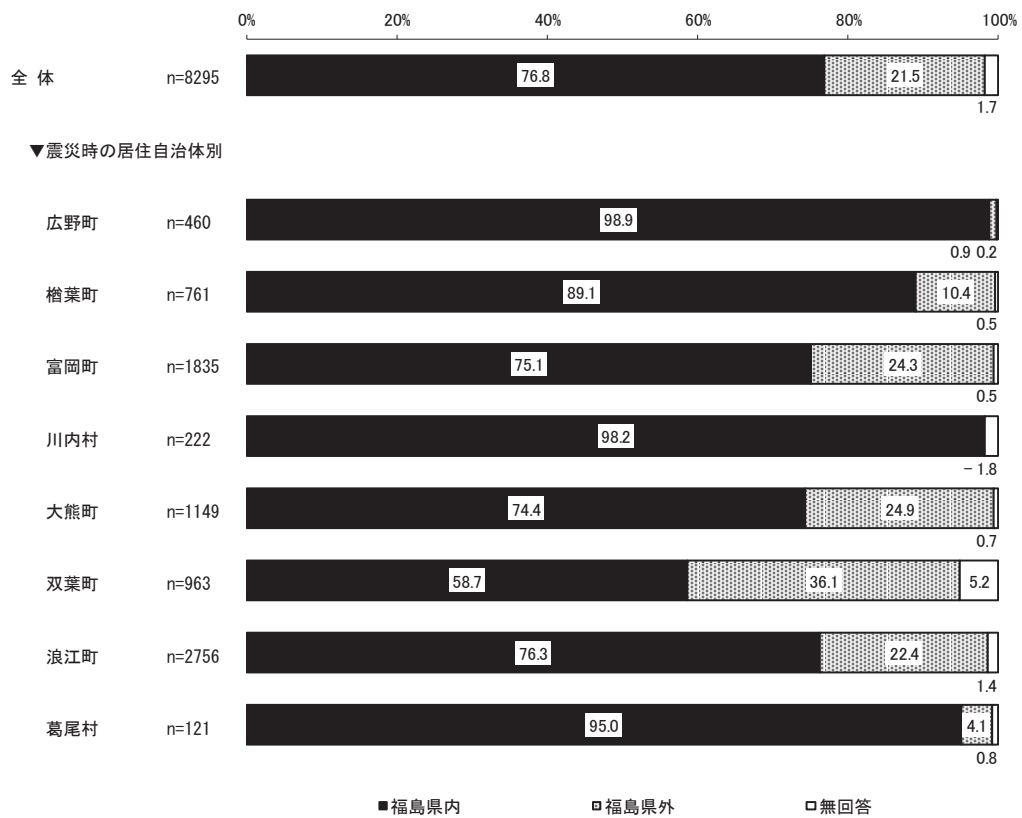


図 4.3 福島県内外でみた場合の現在の居住地

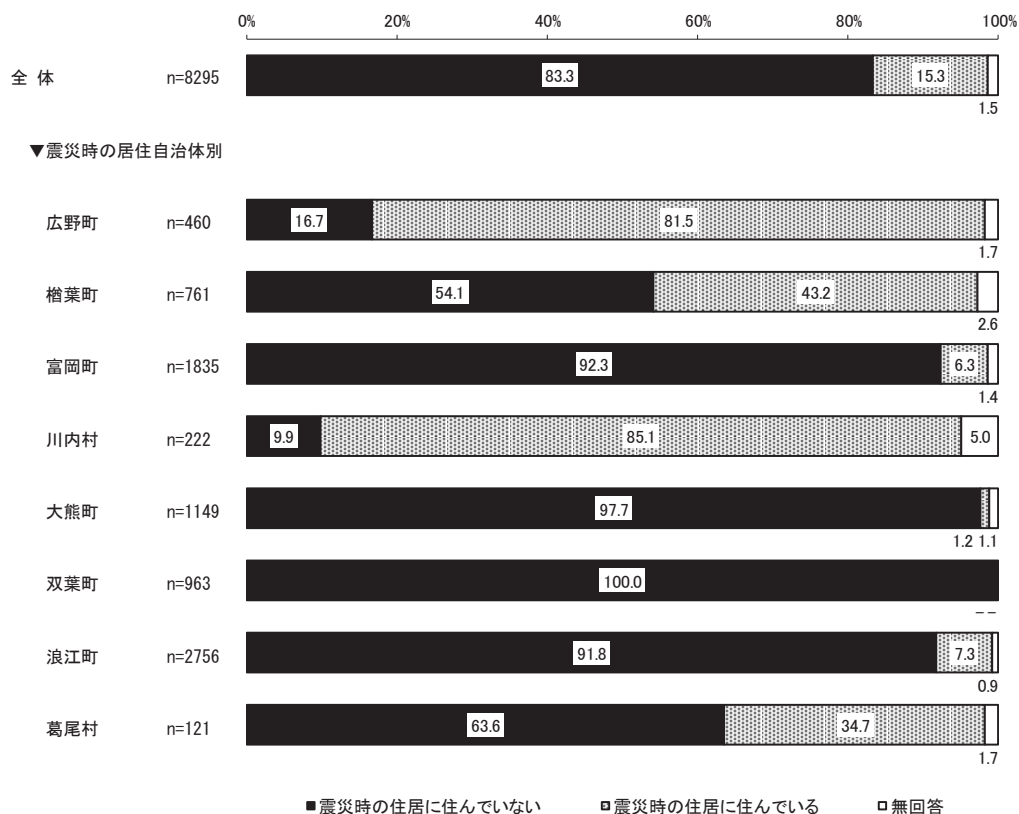


図 4.4 現在の住居

では、「震災時の住居に住んでいない」と回答した人に、震災時の住居の現在の状況について確認したのが、図 4.5 である。全体として、「問題なく居住することができる」とするのは 8.8% と低く、「修理しないと住めない状態」10.9%、「建て替えないと住めない状態」9.6%、「取り壊した」51.1% となっており、約 7 割がすでに取り壊したか、修理や建て替えないと住むことができない状態にあると回答しており、震災前の住居に帰る条件そのものを失っている者が大半であった。ただし、広野町・川内村・葛尾村では、2～3 割程度で「問題なく居住することができる」と回答しており、町村間の違いも見られた。

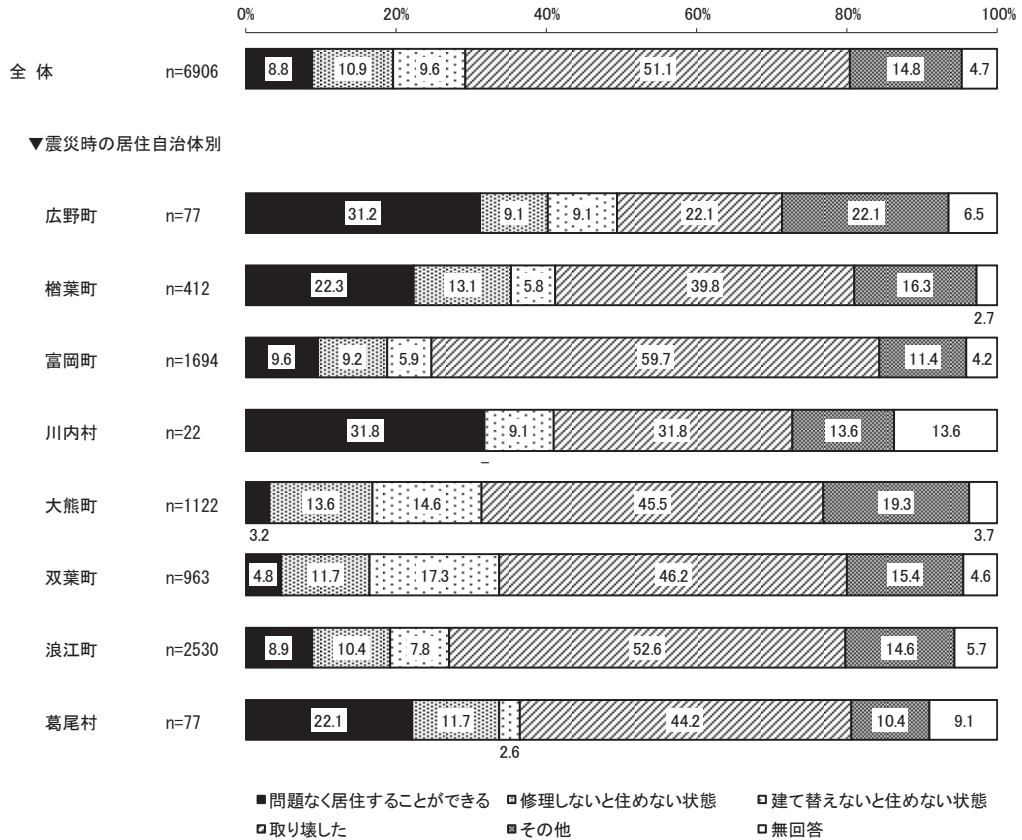


図 4.5 震災時の住居の状況（震災時の住居に住んでいない人）

震災時の住まいへの通い頻度では、図 4.6 のように、全体で最も多かったのは、32.2%の「ほぼない」であった。次いで多かったのは、「半年に1回程度」の16.2%、「年に1回程度」の12.2%などとなっていた。

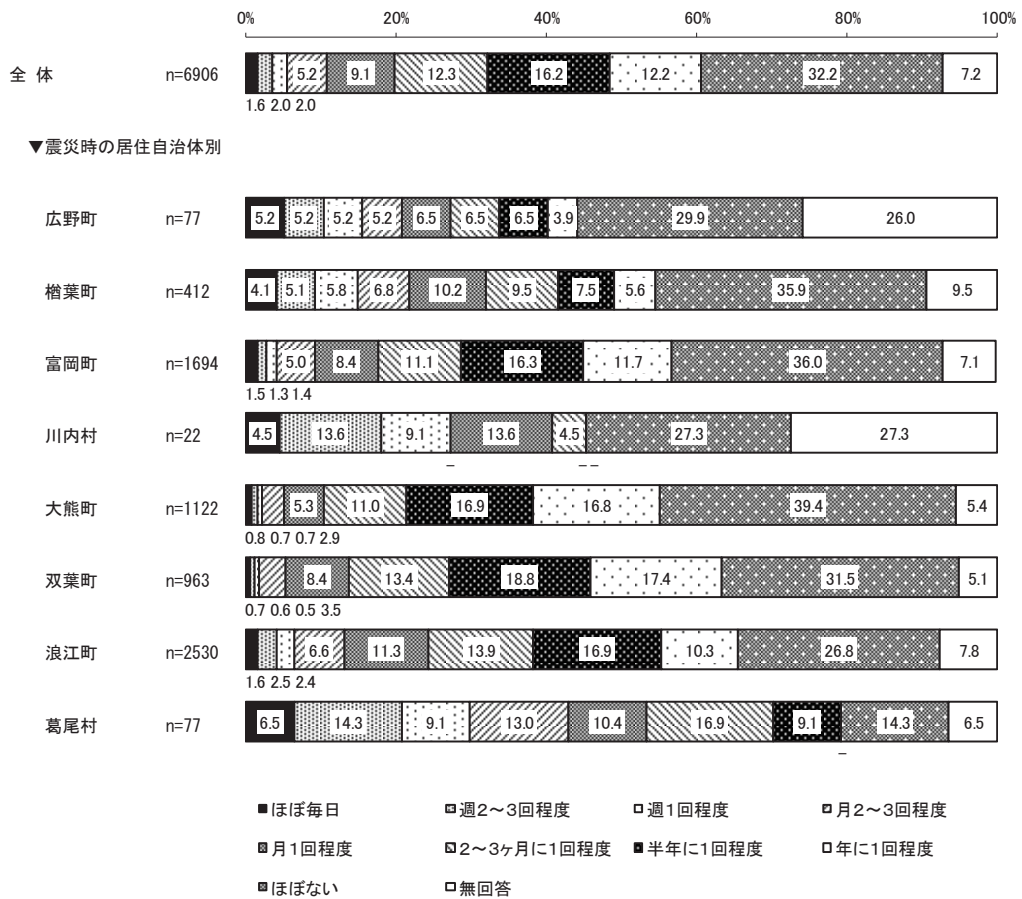


図 4.6 震災時の住居にどれくらいの頻度で通っているか

なお、「震災時の住居に住んでいる」と回答した人に、震災時の住居について、修理・再建の状況を確認したのが、図 4.7 である。全体として、17.4%が「震災時のまま、修理しないで住んでいる」と回答し、64.1%が「震災後、修理をして住んでいる」、12.0%は「震災後、建て直して住んでいる」と回答した。町村別にみると、広野町・川内村で「震災時のまま、修理しないで住んでいる」とする回答が相対的に多かった。

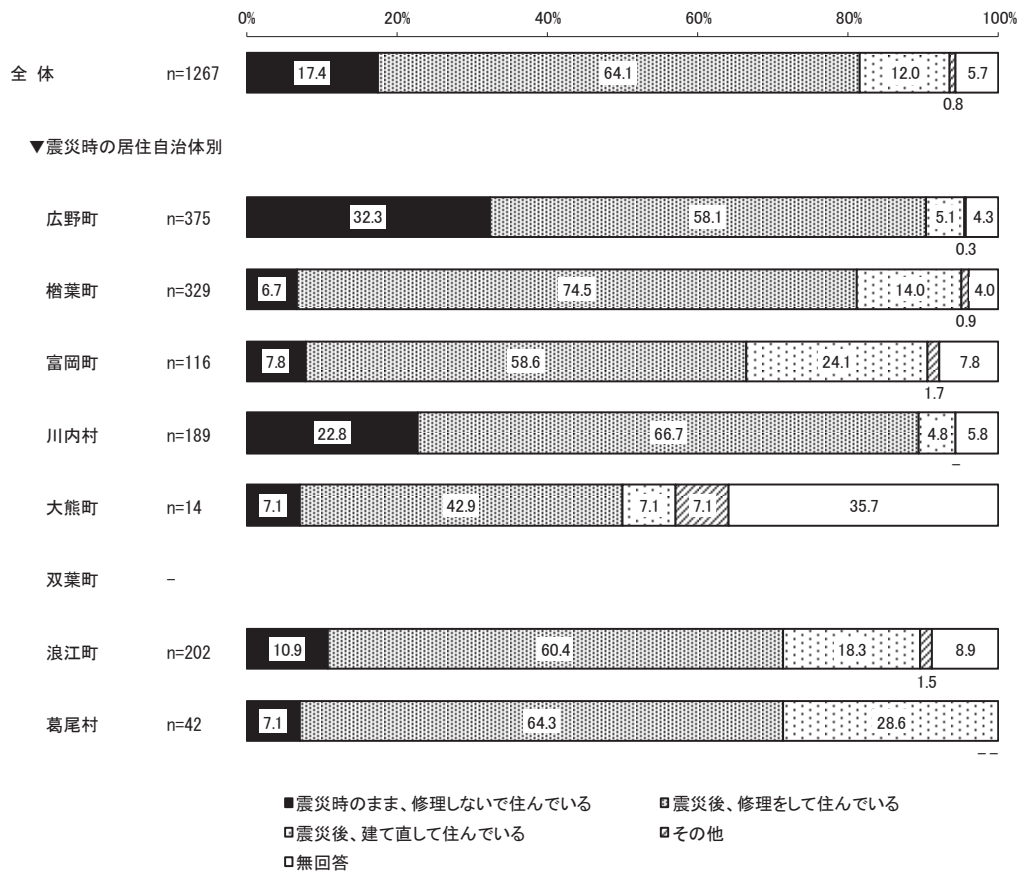


図 4.7 震災時の住居の状況（震災時の住居に住んでいる人）

4.3 現在の住まいの種類

現在の住まいの種類について、最も近いものを回答したのが、図 4.8 である。全体として、60.0%の者が「購入・再建した持ち家（集合住宅を含む）」と回答し、「元々住んでいた持ち家（集合住宅を含む）」が 13.1%であった。「仮設住宅（プレハブ・木造仮設）」はなく、「借上げ住宅（みなし仮設）」が 1.8%、「自己負担の賃貸住宅（公営住宅を除く）」が 6.6%、「復興公営住宅（災害公営住宅）」が 10.0%などであった。

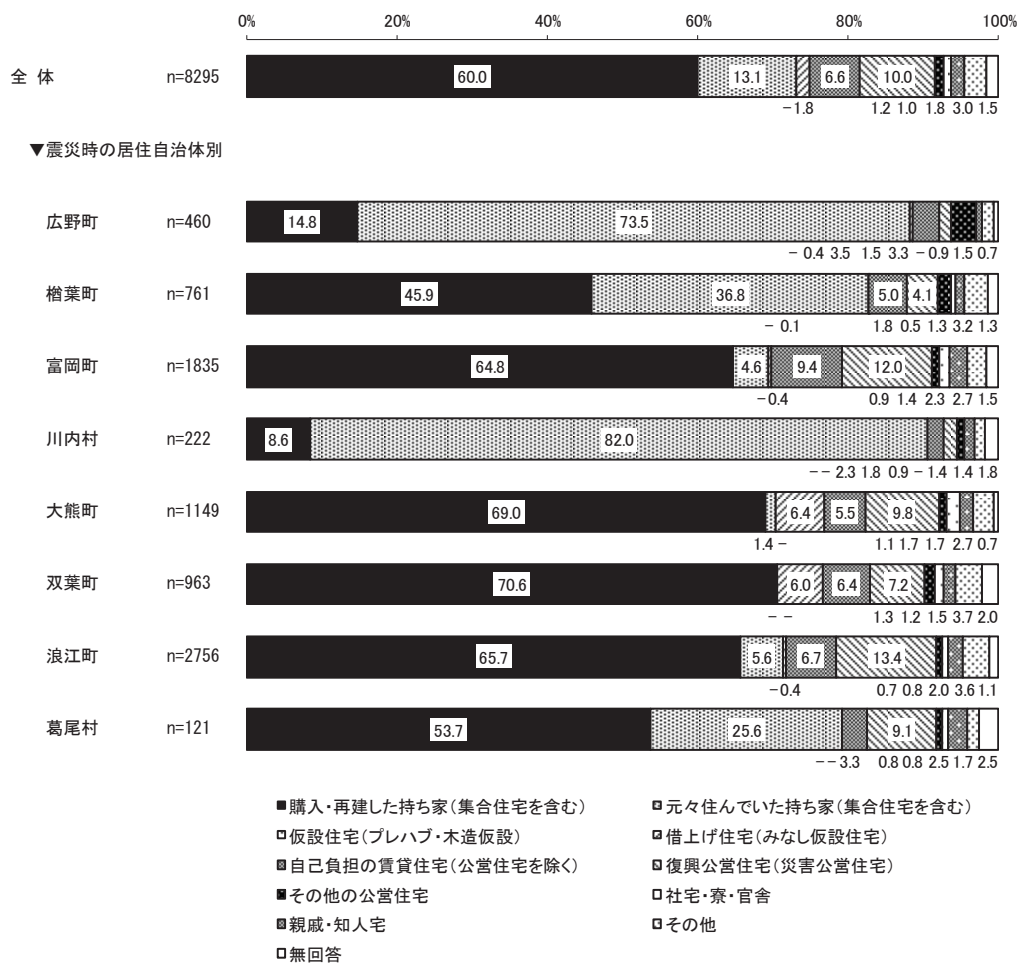


図 4.8 震災時の住居の状況（震災時の住居に住んでいる人）

4.4 元の居住地への帰還意志

元の居住地への帰還意志については、図 4.9 の通りである。全体として、64.8%が「戻る気はない／戻れない」とする回答が最も多かった。一方で、18.6%の者が「まだ明確ではない／悩んでいる／わからない」としており、震災から 10 年が経過した現在も帰還意志に迷いがみられた。

5. 健康

本章では心身の健康について述べる。具体的には健康状態、精神的健康状態に関する調査結果である。

5.1 健康状態

本調査（第3回調査）では、心身の健康について、「あなたの健康状態は、いかがですか」という設問に5段階で回答を求めた。その結果が図5.1である。全体として、「ふつう」が44.9%と最も多い。「やや悪い（22.9%）」や「悪い（6.9%）」が多く、「やや良い（6.4%）」や「良い（10.6%）」は少なかった。

町村別に見ると、檜葉町で「やや悪い」が、浪江町で「やや悪い」や「悪い」がやや多い傾向が見られた。川内村で「悪い」が、葛尾村で「やや悪い」や「悪い」がやや少ない傾向が見られた。また、川内村と葛尾村で「やや良い」が多い傾向が見られた。

ISSP（International Social Survey Programme）国際比較調査（日本）では、心身の健康状態についての認識を「あなたは、ご自分の心や体の健康状態について、どのように感じていますか」という設問に6段階で回答を求めている²。日本での調査は、2021年11月から12月にかけて実施されており³、本調査とほぼ同時期に行われている。この2021年国際比較調査（日本）によると、「かなりよい」が3.5%、「よい」が14.5%、「普通」が51.6%となっており、「あまりよくない」が25.3%、「かなりよくない」が3.7%と続く。「わからない」が0.9%となっている。

福島県「県民健康調査」の詳細調査として位置づけられている「こころの健康度・生活習慣に関する調査」では、主観的健康状態について「現在のあなたの健康状態はいかがですか」という設問に5段階で回答を求めている。令和2年度の調査は、2021年1月末に調査開始となり同年10月までの回答を集計しており⁴、本調査の時期の若干のズレはあるが、コロナ禍に実施されている。この令和2年度の調査の一般（16歳以上）の結果によると、「きわめて良好」が5.2%、「良好」が20.3%、「普通」が61.1%となっており、「悪い」が12.2%、「きわめて悪い」が1.1%と続く。

健康状態評価の構成割合をみると、東日本大震災時に双葉地方に居住していた方を対象とした本調査では悪いとの評価（「やや悪い」と「悪い」）が29.8%であったのに対して、ISSP国際比較調査ではよくないとの評価（「あまりよくない」と「かなりよくない」）が29.0%と同程度であり、また、双葉8町村以外の避難区域等の住民も含む県民健康調査では悪い

² 村田ひろ子：「世論調査からみえる健康意識と医療の課題-ISSP国際比較調査「健康・医療」・日本の結果から-」放送研究と調査：9，20-40，2022.

³ 住民基本台帳から層化無作為2段階抽出法で抽出された全国の18歳以上の2,400人を対象とし、1,453人から有効回答を得ている。

⁴ 令和2年度「心の健康度・生活習慣に関する調査」結果報告

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/529183.pdf>（2023年2月3日最終閲覧日）

との評価（「悪い」と「きわめて悪い」）が 13.3%と低かった。

様々な調査研究から指摘されているように、新型コロナウイルス感染症の流行が健康状態に影響を及ぼした可能性が考えられる。本稿の図 7.1 で示すように、現在の生活で困っていることとして「新型コロナウイルス感染症にともなう生活の変化」と回答した人は 40.3%いた。また、こころの健康度・生活習慣に関する調査では、新型コロナウイルス感染症による生活への支障があるとの回答が 42.8%となっている。この 2つの調査対象者において、新型コロナウイルス感染症への対応ができていた人が多かったことがうかがわれる。その一方で、ISSP 国際比較調査では、危険認知ではあるが、新型コロナウイルスに感染する危険を身近に感じているとの回答が 80.0%となっている。以上のことから、新型コロナウイルス感染症による影響も考慮した上で、東日本大震災時に双葉地方に居住していた人の健康状態について留意していく必要があると考えられる。

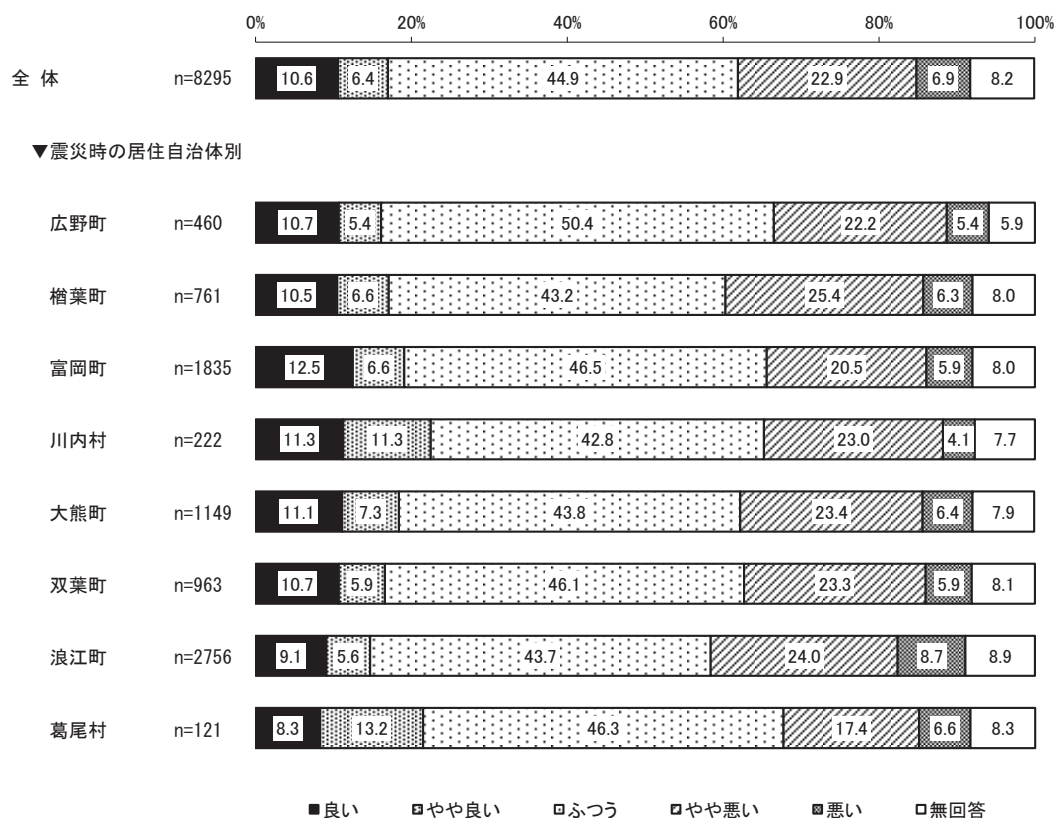


図 5.1 健康状態

5.2 精神的健康状態

本調査（第3回調査）では、精神的健康状態を評価する指標としてWHO-5を用いた。第1回調査から本調査の結果をまとめたのが表5.1である⁵。

簡易的な精神的健康の指標として「WHO-5 精神的健康状態表」が開発されている。この指標は、最近2週間における気分状態を尋ねる5つの質問項目から構成される。この5つの項目への回答の数字を合計した粗点を用いて精神的健康状態が評価される⁶。総得点が13点未満の場合には、ICD-10による大うつ病調査票を実施することが推奨されている。

事故直後の2011年に実施された第1回調査では、精神的健康状態が低いことを示し、うつ病のためのテストの適応となる13点未満が7割を超え、粗点の平均は7.4であった。2017年に実施された第2回調査では、13点未満が6割と多く、粗点の平均は10.6であった。第1回調査時点から3.2点ほど上昇した結果となった。2021年12月に実施された第3回調査では、13点未満が5割と依然多く、粗点の平均は11.8であった。第2回調査時点から1.2点ほど上昇した結果となった。

この精神的健康状態は、回答者年齢や現在の住居種別や住まいにより状況が異なる。

回答者年齢別でみると第3回調査結果では、30歳代以下が平均14.0～15.8と高く、40歳代以上が平均11.1～12.7と13点未満となっていた。いずれの年代でも年を経て精神的健康状態のスコアが上昇している。

現在の住居種別でみると第3回調査結果では、「復興公営住宅」が平均9.9と特に低かった。概ね、年を経てどの住居種別でも精神的健康状態のスコアが上昇している。

現在の住まい別でみると第3回調査結果では、県内県外は平均11.8～11.9と13点未満ではあったが、大きな差はなかった。年を経て精神的健康状態のスコアが上昇している。

調査時点や調査対象が異なるが、糖尿病患者を対象とした調査⁷では平均15.5±6.1、大都市部在住高齢者を対象とした調査⁸では平均15.6±6.1となっている。また、65歳から84歳までの日本全国の高齢者を対象とした調査⁹では5歳刻みの平均を算出しており、平均14.8～16.9となっている。これらの先行研究と比べると、精神的健康状態が良くない状

⁵ 第1回調査と第2回調査の数値は、第2回調査を参照した。

丹波史紀他：「東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態：2017年第2回双葉郡住民実態調査」東京大学大学院情報学環情報学研究。調査研究編：36，1-66，2020。

⁶ 計算方法や解釈等は、WHO-5 精神的健康状態表（1998年版）を参照。

Psychiatric Research Unit, Mental Health Centre North Zealand, WHO-Five Well-being Index(WHO-5). <https://www.psykiatri-regionh.dk/who-5/Pages/default.aspx>（2023年2月3日最終閲覧日）

⁷ Awata Shuichi et al：「Reliability and validity of the Japanese version of the World Health Organization-Five Well-Being Index in the context of detecting depression in diabetic patients」Psychiatry and Clinical Neurosciences：61(1)，112-119，2007。

⁸ 井藤佳恵他：「大都市在住高齢者の精神的健康度の分布と関連要因の検討。

要介護要支援認定群と非認定群との比較」日本老年医学会雑誌：49(1)，82-89，2012。

⁹ 岩佐一他：「地域在住高齢者における日本語版「WHO-5 精神的健康状態表」(WHO-5-J)の標準化」老年社会科学：36(3)，330-339，2014。

態であることが分かる。

第3回調査では、第2回調査に比べて精神的健康状態のスコアが上昇しているが、依然低い水準である。また、低い水準の人の割合も減少してはいるが、依然多いままである。あらためてメンタルケアなどソフト面の対策の重要性が認識された。特に、年齢が高い人や復興公営住宅居住者の精神的健康状態のスコアが低いことに留意が必要と考えられる。

表 5.1 WHO-5 精神的健康状態スコア及び他調査との比較

		第1回調査（2011年）			第2回調査（2017年）			第3回調査（2021年）		
		平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数
全体		7.4	5.9	12,844	10.6	6.4	9,140	11.8	6.4	7,474
回答者年齢	29歳以下	10.4	6.3	561	14.2	6.3	149	15.8	6.1	78
	30歳代	8.5	5.9	1,442	13.0	6.0	578	14.0	6.1	270
	40歳代	7.4	5.6	1,831	11.5	6.1	987	12.7	6.2	664
	50歳代	6.9	5.6	3,096	10.5	6.2	1,547	11.9	6.2	1,025
	60歳代	6.9	5.9	3,214	10.6	6.4	2,961	12.3	6.3	2,193
	70歳代以上	7.3	6.1	2,655	9.6	6.4	2,918	11.1	6.6	3,244
住居種別	避難所	7.0	6.1	489	-	-	-	-	-	-
	仮設住宅	6.9	5.7	2,220	8.9	6.2	681	-	-	-
	親戚・知人宅	9.1	6.4	1,197	10.5	6.5	219	11.3	6.0	133
	自治体が借り上げている住宅	7.1	5.7	6,219	10.1	6.3	1,606	11.0	6.3	133
	自己負担の賃貸住宅	8.0	6.1	1,264	10.9	6.4	577	11.7	6.7	507
	購入・再建した持ち家（集合住宅を含む）	-	-	-	11.0	6.3	4,293	12.0	6.3	4,604
	元々住んでいた持ち家（集合住宅を含む）	-	-	-	12.7	6.4	408	12.9	6.4	1,000
	復興公営住宅（災害公営住宅）	-	-	-	9.2	6.3	708	9.9	6.5	721
	その他の公営住宅	-	-	-	9.7	6.6	165	11.1	6.0	85
	社宅・寮・官舎	-	-	-	13.0	6.7	105	13.1	6.5	81
	その他	7.6	6.1	1,370	9.9	6.6	273	10.4	6.5	210
住まい	福島県内	7.3	5.9	8,795	10.3	6.3	6,600	11.8	6.4	5,857
	福島県外	7.6	6.0	3,976	10.8	6.5	2,136	11.9	6.5	1,617

6 経済

本章では収入や賠償金といった経済に関する事項について分析を行う。

6.1 現在の生活のやりくり

現在の生活費の現状について、「現在の生活設計は何でやりくりされていますか」と複数回答で問うた結果が、下記の図 6.1 である。全体として、「年金・恩給」が最も多かった（59.3%）。「勤労収入」は 34.2%であった。第 2 回調査で最も多かった「賠償金」は、避難指示解除の地域から感謝料の賠償が終了しており、2018 年 3 月に原則として終期とされていることもあり、減少していた。特に、広野町や川内村といった早い段階で避難指示が解除された自治体では少なかった。また、第 2 回調査と比較しても勤労収入は増加しておらず、調査回答者の年齢の高さもあるが、年金・恩給だけへの依存がみられた。

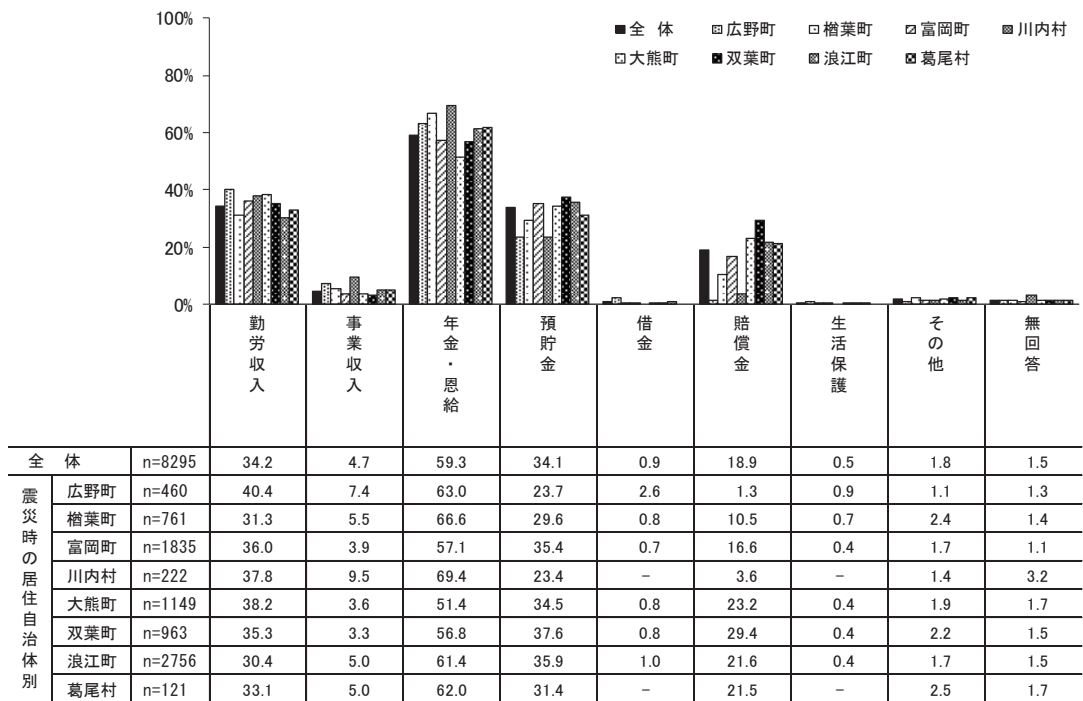


図 6.1 現在の生活のやりくり

6.2 経済的不安

では、そうした状況をふまえて、経済的な不安はどの程度感じているのか。「今後の生活について、あなたは経済的に不安を感じていますか」と問うた結果が図 6.2 である。「とても不安を感じている」と回答した人は 24.8%、「ある程度不安を感じている」と回答した人は 38.6%であった。ただし、この結果は同じ設問で問うた第 2 回調査の時と比較して減少

傾向にある。「まったく不安を感じていない」と回答している人はほとんどいない。

そしてそれは、自治体ごとでも、大まかな傾向は変わらない。約6割程度の人が経済的不安を抱えていた。

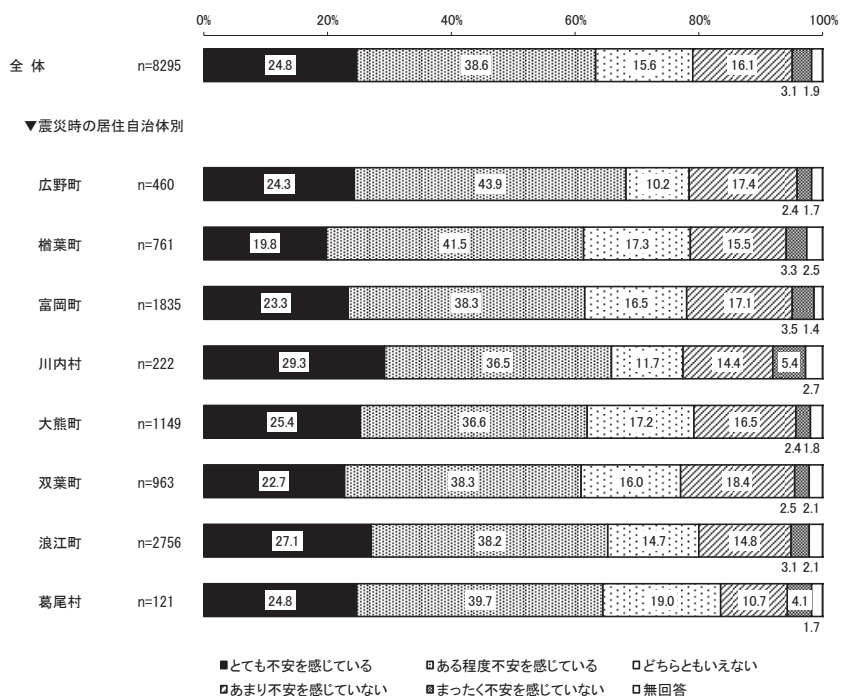


図 6.2 経済的不安

6.3 賠償金の現状

また、「あなたは、東京電力から賠償金を受け取っていますか」と問うた結果が図 6.3 である。まだ受け取っていると回答したのは 5.1%と非常に少なくなっている。ほとんどの人が、かつては受け取っていたが、現在では受け取っていない。

なお、2023 年 1 月 31 日に東京電力は、中間指針第五次追補決定にともない、避難等に係る精神的損害等に対する追加の賠償基準を公表している。

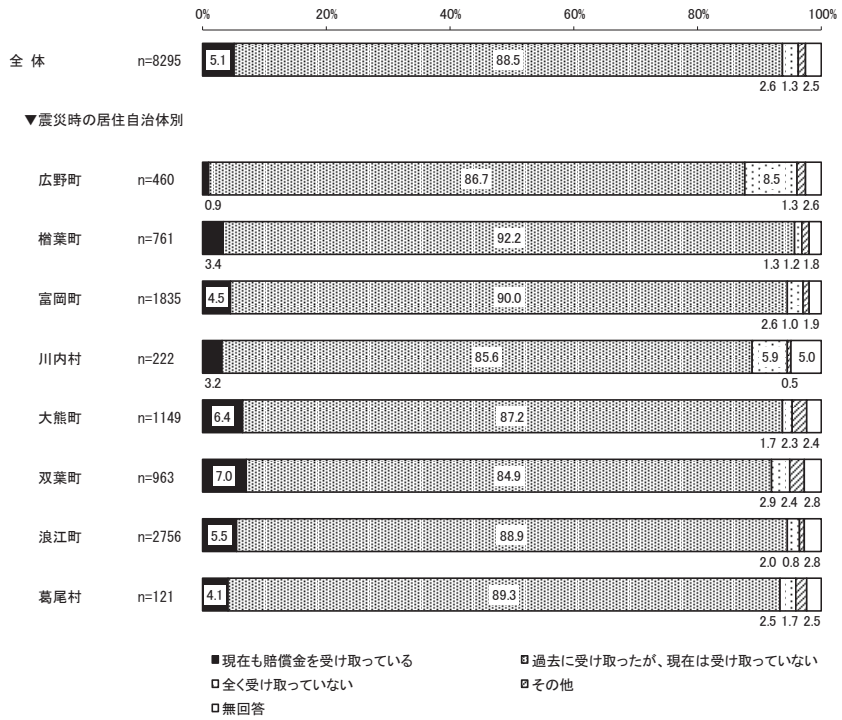


図 6.3 東京電力から賠償金を受け取っているか

7 生活

本章では現在のくらしの状況について述べる。具体的には現在の生活での困りごと、生活時間の変化、必要な時に心配事を聞いてくれる人の存在、行政やメディアなどへの信頼度に関する調査結果である。

7.1 現在の生活で困っていること

「あなたは現在の生活においてお困りのことはありますか」という設問に対して複数回答を求めた（図 7.1）。

全体の傾向として、「健康や介護」、「新型コロナウイルス感染症にともなう生活の変化」および「生活費」が困っていることとしてあげられている。これらの項目に関して、町村ごとに大きな違いがみられなかった。

また、「放射線の影響」に関しては、困っていることとして挙げる割合は 9.0% (n=8295) と、第 2 回調査の 20.0% (n=10013) と比べて低くなっている。除染作業が進み、実際に住んでいる人が存在することが影響していると考えられる。続いて、第 3 回調査の結果を町村ごとに見ると（図 7.1）、全体と比べて、福島第一原子力発電所が立地していた大熊町は困っている人の割合がやや低く、一方で、距離的に離れている川内村は困っている人の割合がやや高かった。

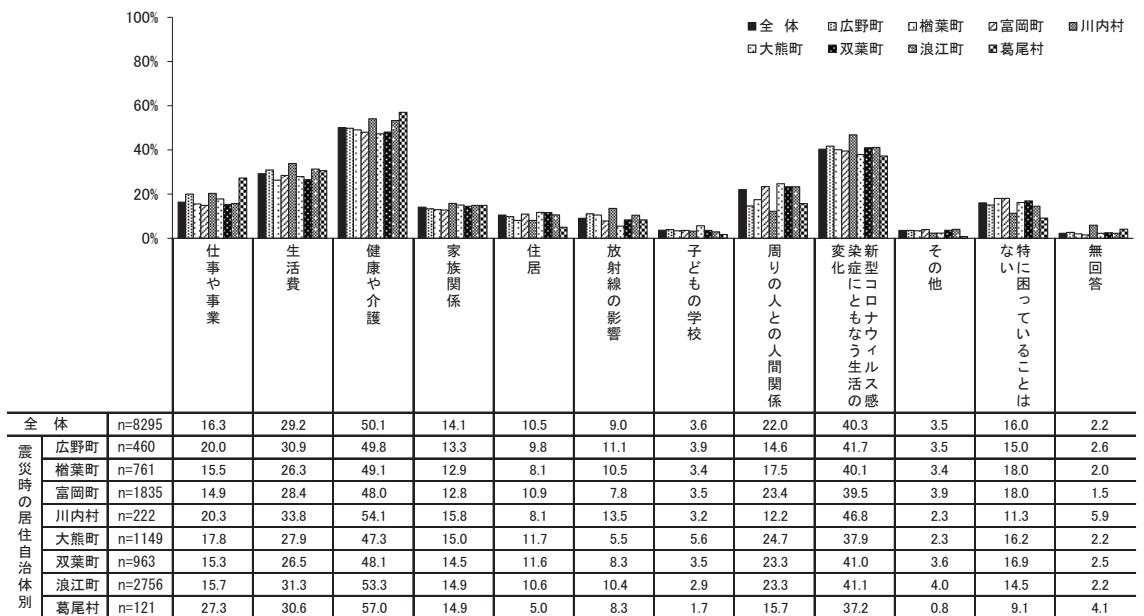


図 7.1 現在の生活で困っている事柄

7.2 生活時間の変化

次に「以下の活動は、震災前と比べて増えましたか。それとも減りましたか」という設

問に回答を求めた（図 7.2）。

全体の傾向として、震災前と比較して増えたとの回答が多かったのは「移動（通勤・通学を除く）」、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「受診・療養」である。一方で、震災前と比較して減ったとの回答が多かったのは「仕事」、「交際・つきあい」である。

「仕事」時間は震災前と比較して、町村によってばらつきがある（図 7.3）。広野町と川内村は「とても減った」割合が全体と比較して少ない。

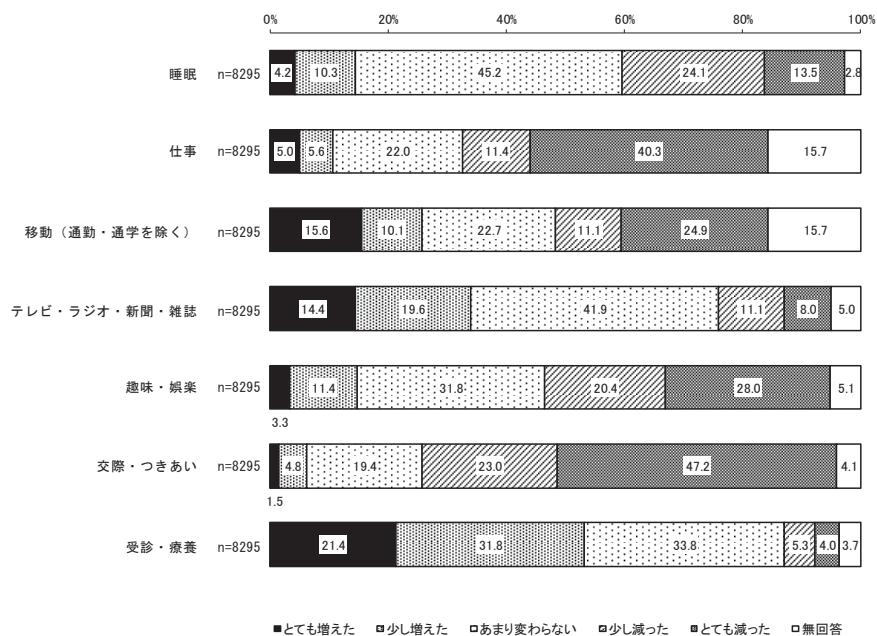


図 7.2 生活時間の増減（全体）

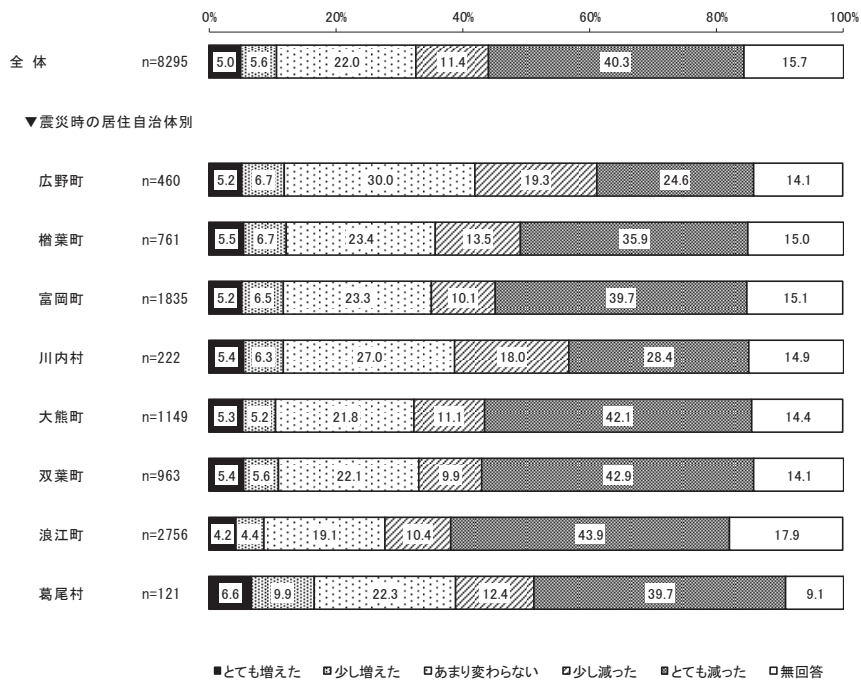


図 7.3 「仕事」時間の増減

「移動（通勤・通学を除く）」時間は震災前と比較して、町村によってばらつきがある（図 7.4）。「とても増えた」や「増えた」の割合が全体と比較して、川内村と広野町は少ない。大熊町は「とても増えた」の割合が多い。

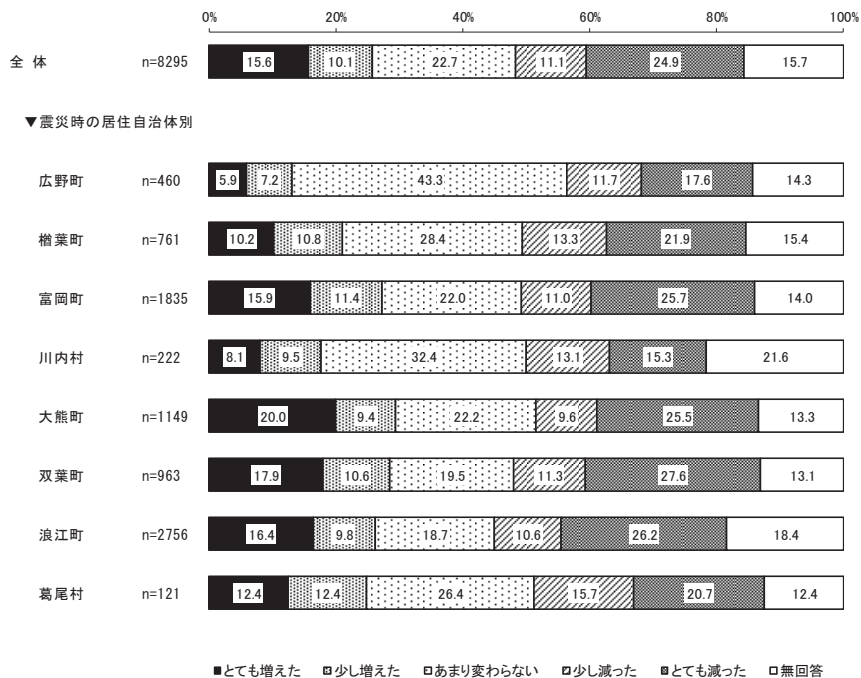


図 7.4 「移動（通勤・通学を除く）」時間の増減（町村別）

「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」時間は震災前と比較して、町村によってばらつきがある（図 7.5）。「とても増えた」や「増えた」の割合が全体と比較して、川内村と広野町は少ない。

「交際・つきあい」時間は震災前と比較して、町村によってばらつきがある（図 7.6）。「とても減った」の割合が全体と比較して、川内村、広野町、および葛尾村は少なく、双葉町と浪江町は多い。

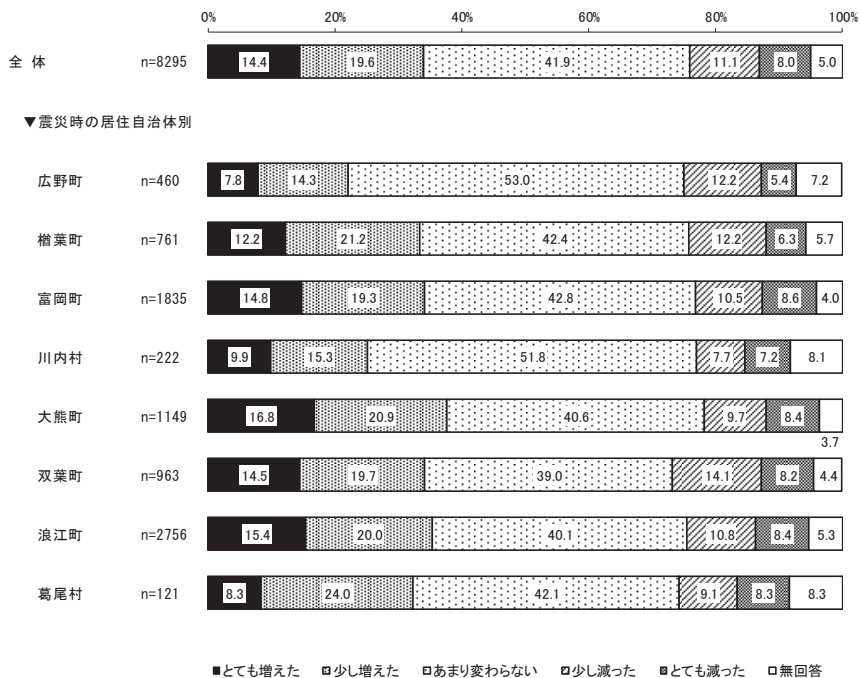


図 7.5 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」時間の増減（町村別）

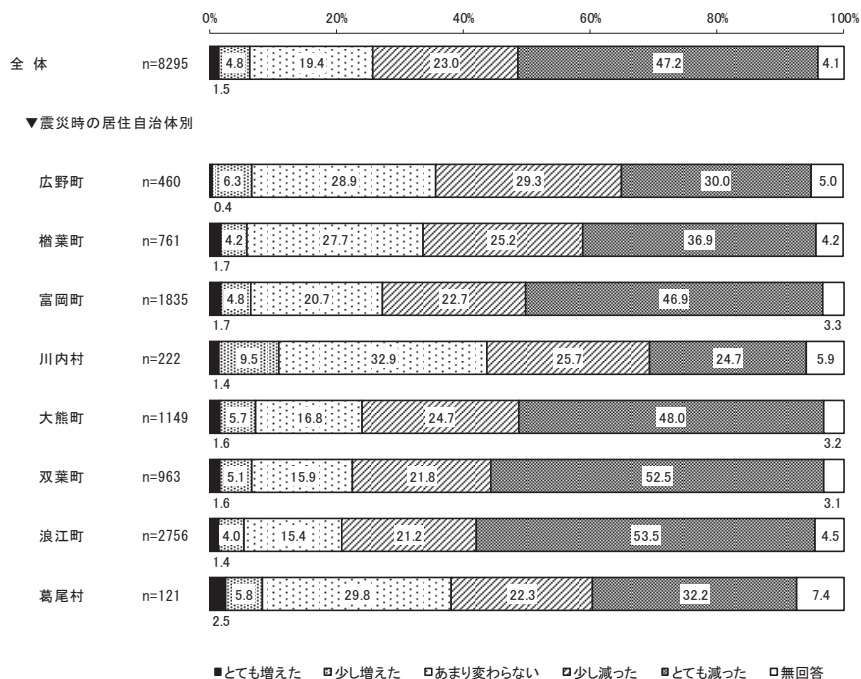


図 7.6 「交際・つきあい」時間の増減（町村別）

「受診・療養」時間は震災前と比較して、町村によってばらつきがある（図 7.7）。「とても増えた」の割合が全体と比較して、川内村、広野町は少ない。

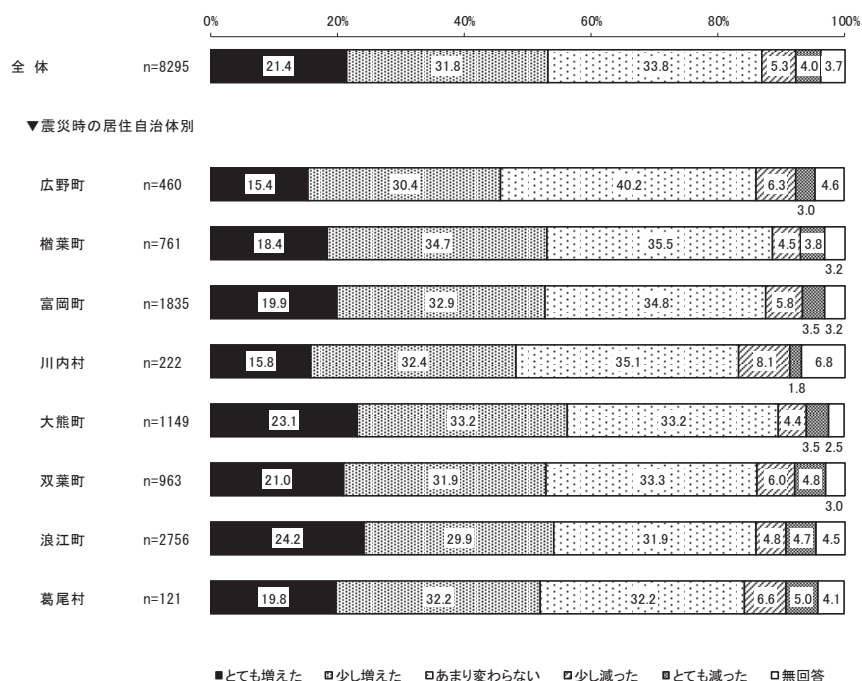


図 7.7 「受診・療養」時間の増減（町村別）

7.3 心配事を聞いてくれた人の存在

「過去1年間、必要な時に心配事を聞いてくれた人はいますか」という設問に対して複数回答を求めた（図 7.8）。全体の傾向をみると、相談先の選択肢として「同居家族」が最も多く、約6割であった。「その他の親族」と「友人」も相談先として挙げられている。一方で、相談先として、「近所の人」、「ボランティアの人」、および「自治体職員」は1割にも満たない程度であった。

町村別にみると、川内村と葛尾村は「近所の人」がそれぞれ20.7%と23.1%と、全体と比較して非常に高い。これは、第2回調査の川内村（22.3%）と葛尾村（16.8%）の回答者と同様の傾向である。

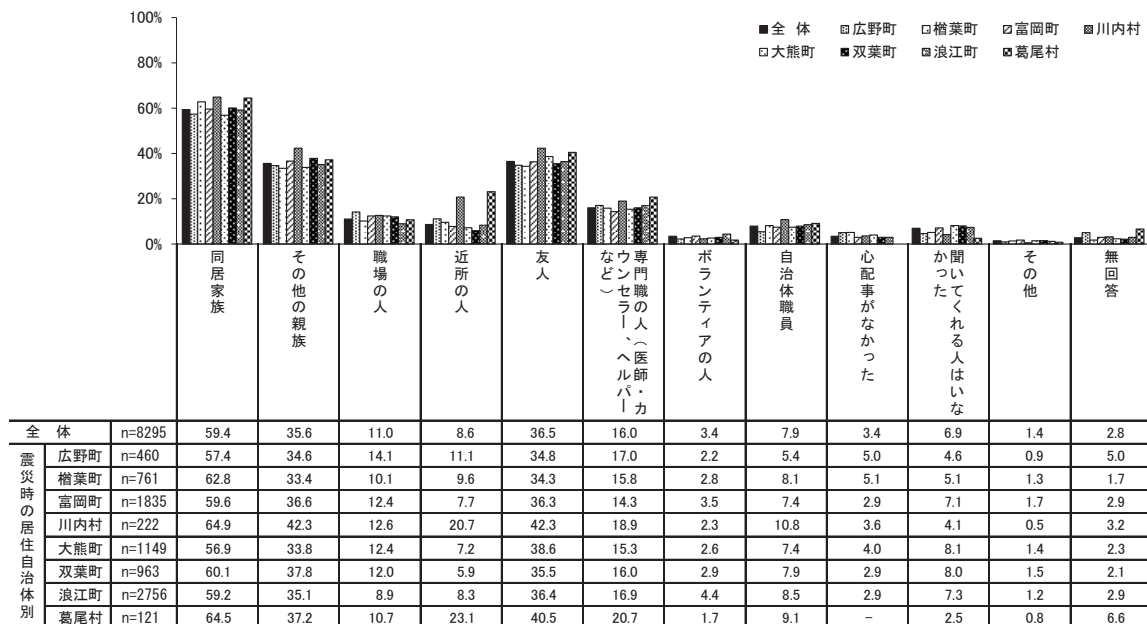


図 7.8 心配事を聞いてくれた人の存在

7.4 行政やメディアへの信頼度

「次にあげるものについて、あなたはどれくらい信頼していますか」という設問に回答を求めた（図 7.9）。

全体の傾向をみると、政府よりも都道府県、都道府県よりも市町村を信頼している人の割合が高い。また、政府と東京電力に関しては、「信頼している」と「やや信頼している」を合わせても3割もおらず（順に、27.9%、21.9%）、信頼されているとはいえないことが示唆された。

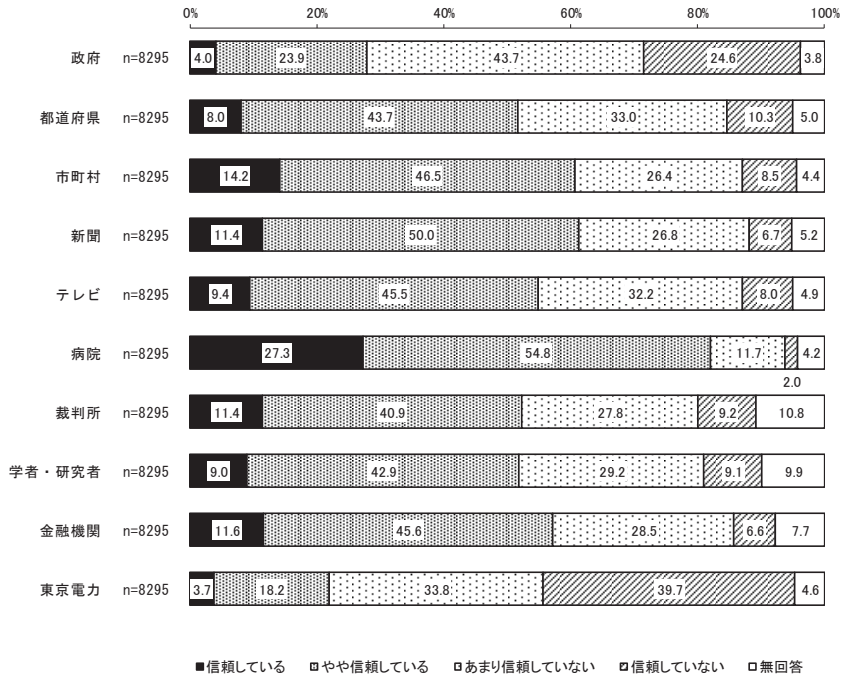


図 7.9 政府やメディアへの信頼度（全体）

町村別にみると、浪江町は政府や東京電力を「信頼していない」と答える割合が全体と比較しても高い（図 7.10 ならびに図 7.11）。

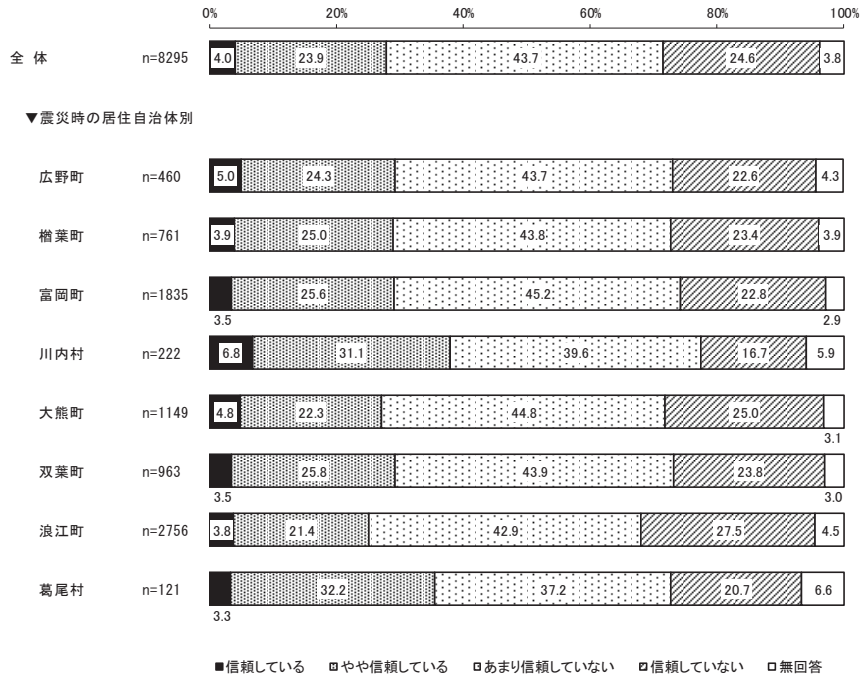


図 7.10 政府への信頼度（町村別）

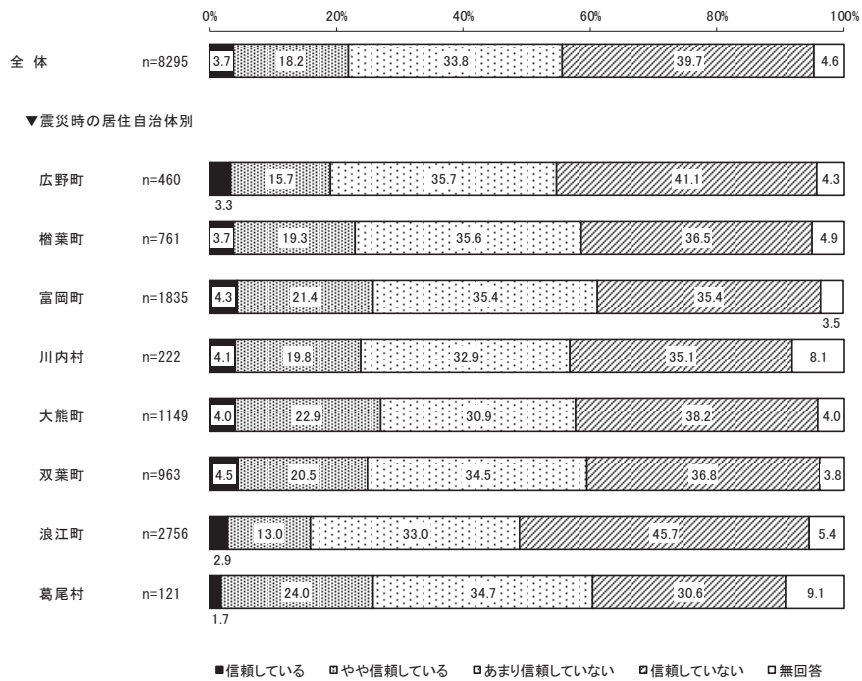


図 7.11 東京電力への信頼度（町村別）

また、特に川内村は、市町村を「信頼している」と答える割合が全体と比較しても高い（図 7.12）。

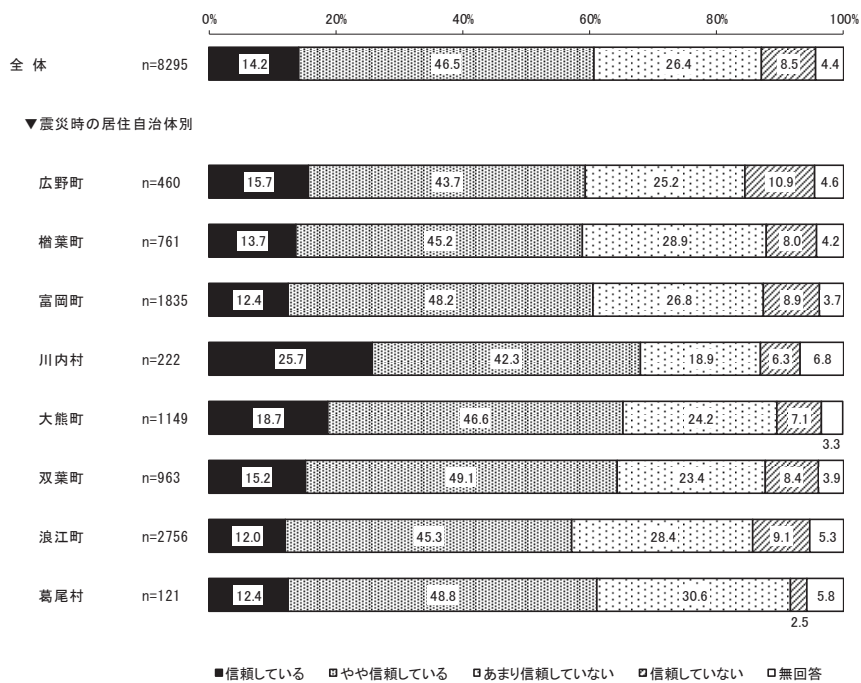


図 7.12 市町村への信頼度（町村別）

8. 復興観

本章では、復興に関する不安感や10年が経過して心理面の変化、今後、住民は復興において何が重要と考えているかを分析する。

8.1 メディアに対する意見

まず、東日本大震災から10年以上が経過した、現在のメディアに対する意見である。新型コロナウイルス感染症の問題なども重なり、福島県に係ることがメディア、特に全国向けに報道されることは減少している。また時には、不安を煽るようなニュース記事が流されることもある。特に福島県産品の農林水産物に対する風評被害が問題となるため、その原因の一つとなりうるメディアのありようは問題視されることも多い。そうしたメディア全般についてどのように双葉郡の住民は考えているのか。東日本大震災や原子力災害関係の放送番組や新聞記事、インターネットのニュースについてどう思うか、と複数回答で問うた結果が図8.1である。

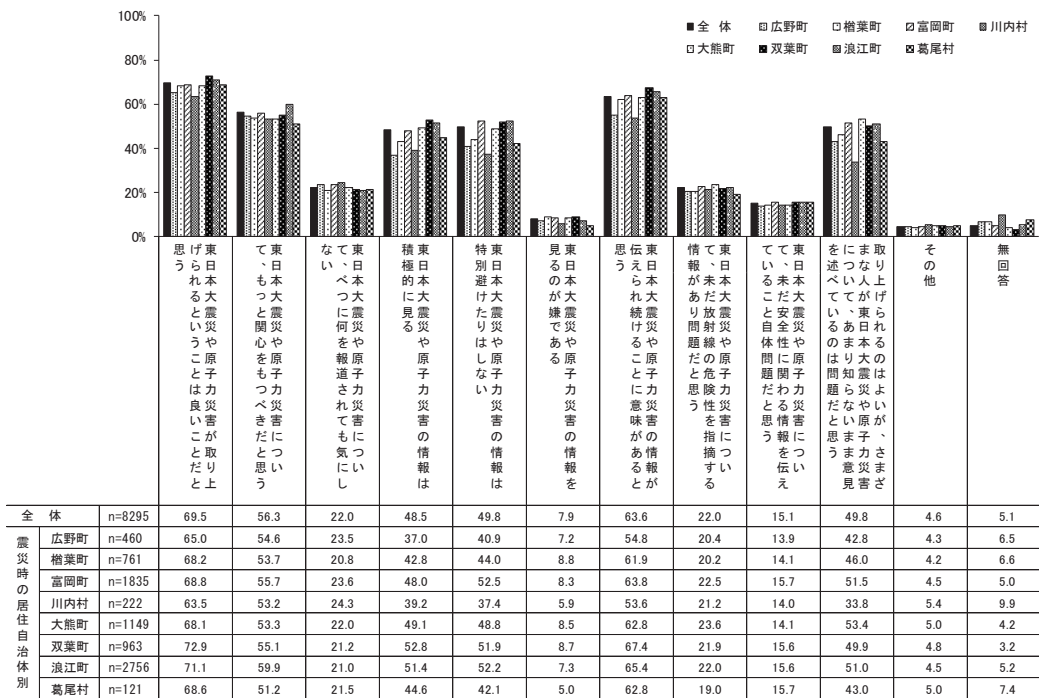


図 8.1 東日本大震災や原子力災害関係のニュースに対する意見

全体としては「東日本大震災や原子力災害が取り上げられるということは良いことだと思う」が69.5%と最も多く、次いで、「東日本大震災や原子力災害の情報が伝えられ続けることに意味があると思う」が63.6%とそのメディアの意義は肯定的にみられていた。特段、特定の地域で低いといったことはみられない。むしろ、「東日本大震災や原子力災害について、もっと関心をもつべきだと思う」という意見が多く(56.3%)、その内容として、「東日本大震災や原子力災害について、未だ安全性に関わる情報を伝えていること自体問題だと思う」と回答する人は少ないことから(15.1%)、まだ安全性を伝えることがメディアにおいて求められていると考えられる。

8.2 復興に関する現在の不安感

次に、復興に関する現在の不安感を問うた。ここでは前回調査と同様に21項目を設定し、5点尺度で問うた。その結果一覧が図8.2ならびに図8.3である。

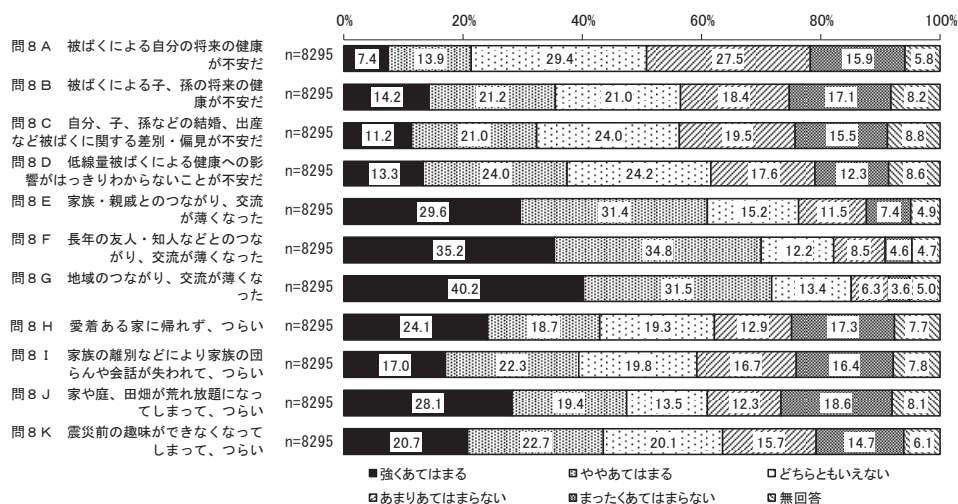


図 8.2 復興に関する不安感その 1

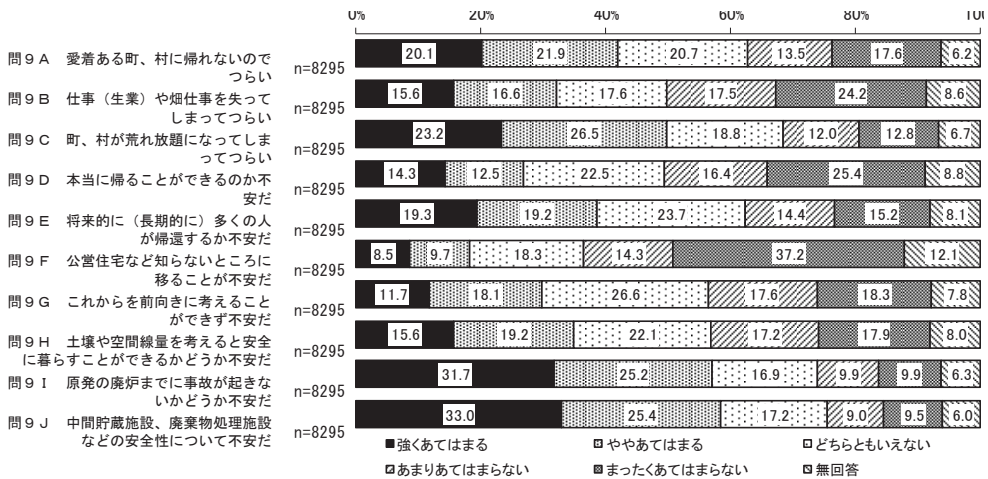


図 8.3 復興に関する不安感その 2

この結果について、因子分析を行うと(最尤法、プロマックス回転)、4つの因子が抽出された。この因子それぞれについて順に、「『ふるさと』の喪失による辛苦」「放射線被ばくの不安」「つながりの喪失」「廃炉の不安」と名付けた(表 8.1)。これは、第2回調査結果と同様の結果である。

表 8.1 復興に関する不安感についての因子分析結果

	F1	F2	F3	F4		
F1 「ふるさと」の喪失による辛苦						
問9 D 本当に帰ることができるのか不安だ	.95	-.01	-.15	-.01		
問9 A 愛着ある町、村に帰れないのでつらい	.94	-.10	-.01	-.08		
問8 H 愛着ある家に帰れず、つらい	.85	-.03	.08	-.11		
問9 C 町、村が荒れ放題になってしまつてつらい	.77	-.12	.03	.11		
問8 J 家や庭、田畑が荒れ放題になってしまつて、つらい	.71	-.03	.08	-.02		
問9 B 仕事(生業)や畑仕事を失ってしまつてつらい	.70	.06	.04	-.03		
問9 F 公営住宅など知らないところに移ることが不安だ	.68	.12	-.13	-.04		
問9 E 将来的に(長期的に)多くの人が帰還するか不安だ	.66	-.04	-.05	.18		
問9 G これからを前向きに考えることができず不安だ	.52	.11	.09	.08		
問8 K 震災前の趣味ができなくなってしまつて、つらい	.48	.05	.25	-.01		
問8 I 家族の離別などにより家族の団らんや会話が失われて、つらい	.45	.15	.26	-.10		
問9 H 土壌や空間線量を考えると安全に暮らすことができるかどうか不安だ	.43	.20	-.06	.36		
F2 放射線被ばくの不安						
問8 B 被ばくによる子、孫の将来の健康が不安だ	-.04	.97	-.01	-.07		
問8 C 自分、子、孫などの結婚、出産など被ばくに関する差別・偏見が不安だ	-.01	.92	.01	-.07		
問8 D 低線量被ばくによる健康への影響がはっきりわからないことが不安だ	-.04	.78	.03	.14		
問8 A 被ばくによる自分の将来の健康が不安だ	.07	.71	-.05	.04		
F3 つながりの喪失						
問8 F 長年の友人・知人などとのつながり、交流が薄くなった	-.05	-.03	.91	.02		
問8 E 家族・親戚とのつながり、交流が薄くなった	-.01	.06	.76	-.01		
問8 G 地域のつながり、交流が薄くなった	.08	-.08	.73	.06		
F4 廃炉の不安						
問9 I 原発の廃炉までに事故が起きないかどうか不安だ	-.03	.00	.02	.96		
問9 J 中間貯蔵施設、廃棄物処理施設などの安全性について不安だ	-.03	.01	.03	.93		
因子抽出法: 最尤法	回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法	累積固有率	46.48%	57.51%	64.75%	69.87%
	因子相関行列	F1	.53	.59	.57	
		F2		.39	.61	
		F3			.38	
		F4				

『ふるさと』の喪失による辛苦」因子について、「本当に帰ることができるのか不安だ」「愛着ある町、村に帰れないのでつらい」などから構成された。この因子について属性別に因子得点を求めた結果が図 8.4 である。

特に目立つのが、年代が高いほど『ふるさと』の喪失による辛苦」が強く、大熊町や双葉町、浪江町といった避難指示解除が遅れている地域ほど強かった。なかでも、震災当時は大熊町、浪江町に住んでいて、現在は震災時の住居に住んでいない人は特に『ふるさと』の喪失による辛苦」が強かった。

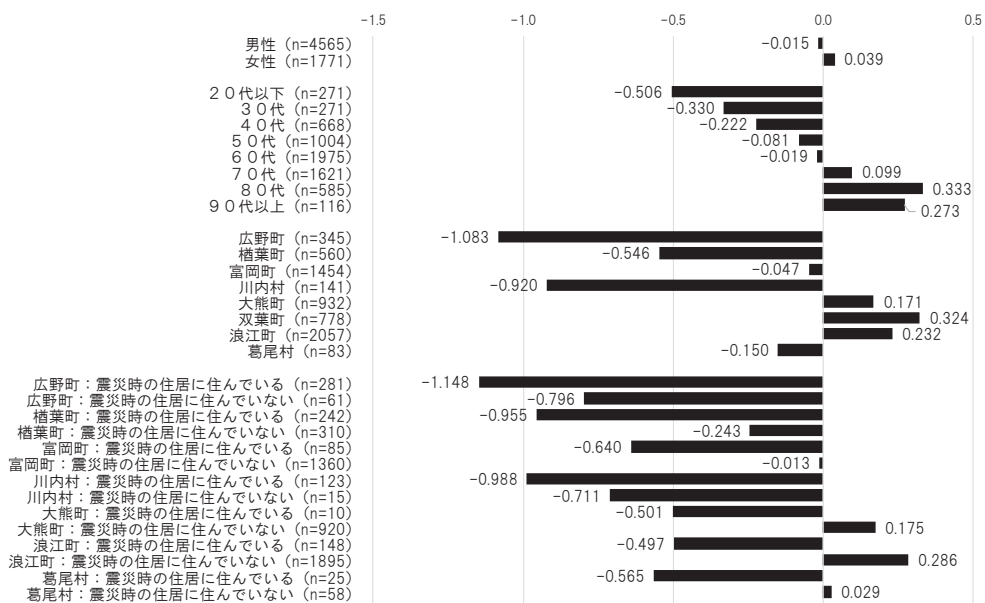


図 8.4 因子 1 : 「ふるさと」の喪失による辛苦 (属性別因子得点)

「放射線被ばくの不安」因子について、「被ばくによる子、孫の将来の健康が不安だ」「自分、子、孫などの結婚、出産など被ばくに関する差別・偏見が不安だ」などから構成された。また、図 8.2 にあるように、これらの項目について「強くあてはまる」と回答している割合は、1 割程度であり、2 割程度であった第 2 回調査結果と比較して、大幅に減少した。この因子について属性別に因子得点を求めた結果が図 8.5 である。

属性別では、女性や、40 代、50 代、そして 80 代が不安感が強かった。また、震災時の住居に住んでいない人ほど不安感が強い結果が得られた。

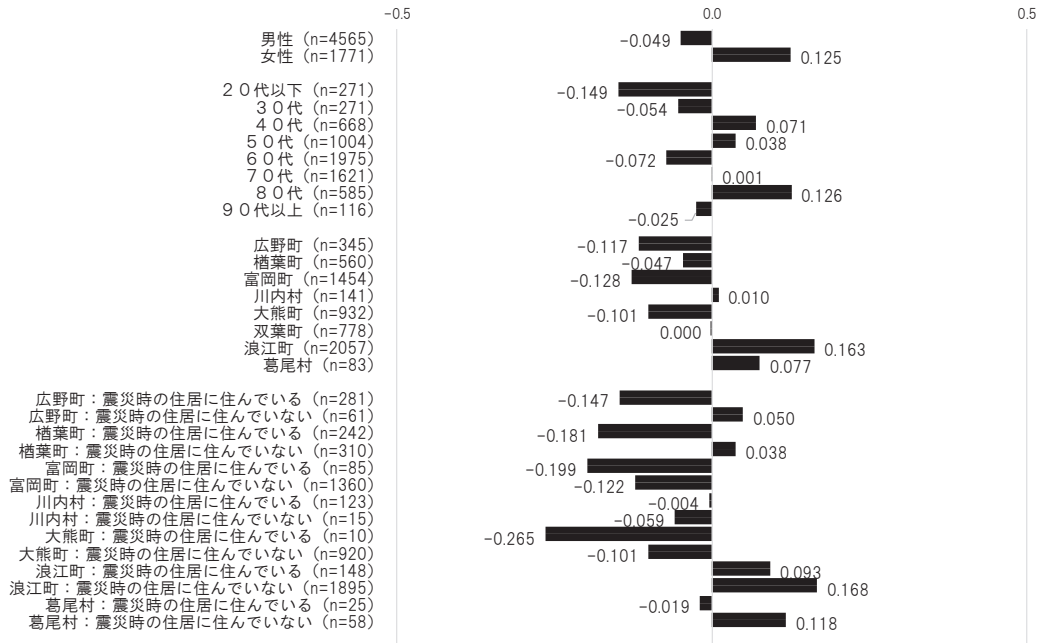


図 8.5 因子 2 : 「放射線被ばくの不安」(属性別因子得点)

「つながりの喪失」因子について、「長年の友人・知人などとのつながり、交流が薄くなった」などから構成された。この因子について属性別に因子得点を求めた結果が図 8.6 である。

属性別では、「『ふるさと』の喪失による辛苦」因子と同様に、年代が高いほど、また、大熊町や双葉町、浪江町といった避難指示解除が遅れている地域ほど不安感が強かった。特に浪江町においては、震災時の住居に住んでいる、いないに関わらず、「つながりの喪失」という点が強く出ていた。

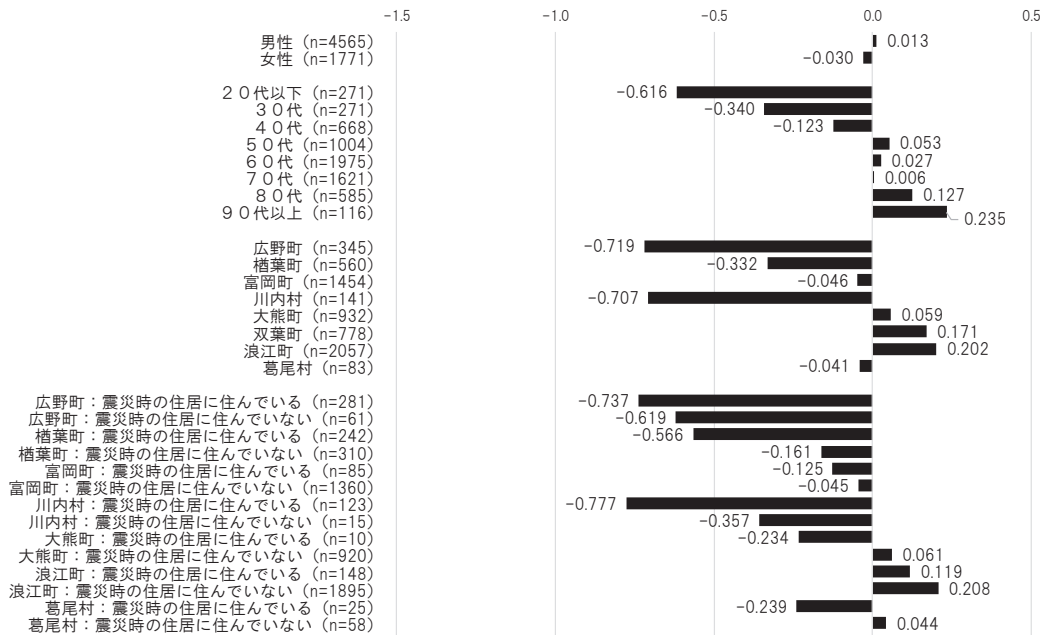


図 8.6 因子3：「つながりの喪失」(属性別因子得点)

「廃炉の不安」因子について、「原発の廃炉までに事故が起きないかどうか不安だ」「中間貯蔵施設、廃棄物処理施設などの安全性について不安だ」の2つから構成された。この尺度について、図 8.3 にあるように「強くあてはまる」と答えた割合が3割程度と他の尺度と比較しても多かった。ただし、第2回では約半数が「強くあてはまる」と答えていたことをふまえると、若干、不安感は減少傾向にあるといえる。この因子について属性別に因子得点を求めた結果が図 8.7 である。

先と同様に年代が高いほど、また、大熊町や双葉町、浪江町といった避難指示解除が遅れている地域ほど不安感が強かった。

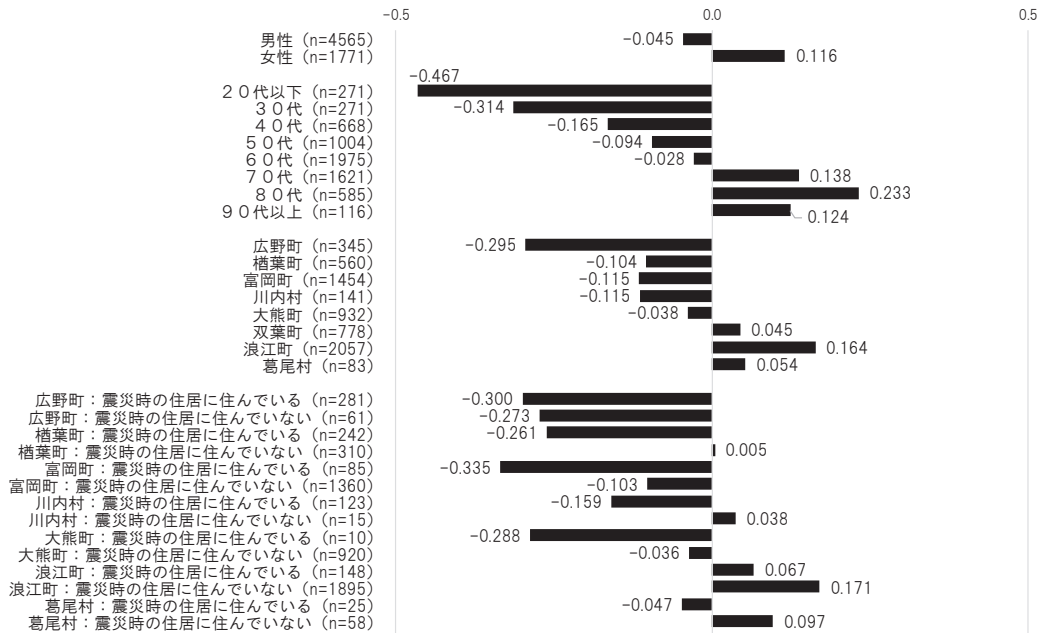


図 8.7 因子 4 : 「廃炉の不安」(属性別因子得点)

8.3 気持ちの変化

次に、震災に関連して、実際に受けた差別や心境の変化などについて、10年以上が経過してどのように受け止めているのかを問うた。13項目について過去と現在の変化について問うた結果が図 8.8 である。

「震災がなければ、今とは違う人生や進路だったと思う」について、昔も今も感じていると回答する人が全体の6割以上いた。東北地方太平洋沖地震ならびにそれにとまなう原子力発電所事故によって生活が一変してしまったことを多くの人が感じており、そのことは10年以上が経過しても変わらない。「昔は感じたが今は感じていない」と回答する人は2割程度であった。

また、それ以外の項目についても、差別や偏見を感じる人は今でも2割程度存在するし、人間関係に対する不安、家族の問題など多様な不安や課題を昔も今も感じている人は多くいた。

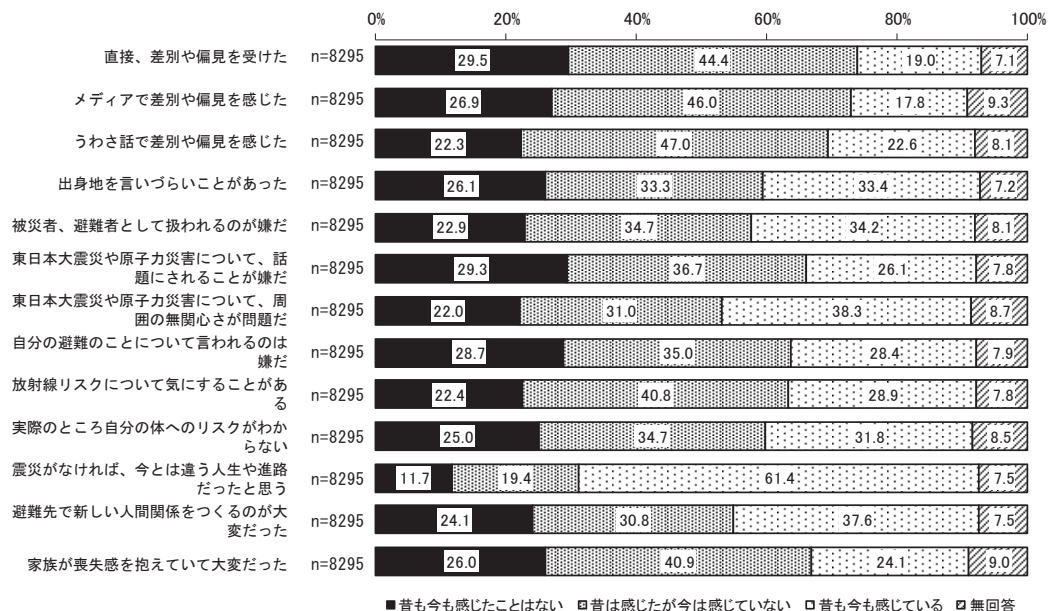


図 8.8 震災に関連して感じること

8.4 東日本大震災と復興にかんする意識

次に、10年以上が経過してから、東京電力福島第一原子力発電所事故などの東日本大震災についてどのような意識を問うため、「東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故についてどう思いますか」と複数回答で問うた。その結果が図 8.9 である。

留意した選択肢 4 つのいずれでも 4 割程度の回答があり、大きな差がみられなかった。「東日本大震災や原子力発電所事故については、割り切るしかなかった」人、「東日本大震災や原子力発電所事故については、今も割り切れていないところがある」人、そして、「東日本大震災や原子力発電所事故はいまだ許せない」人、「東日本大震災や原子力発電所事故はもう、今更何をいっても仕方がないと思う」人とさまざまであった。そして、浪江町は「東日本大震災や原子力発電所事故はいまだ許せない」と回答した人が 46.8%で他の市町より若干多い結果であった。

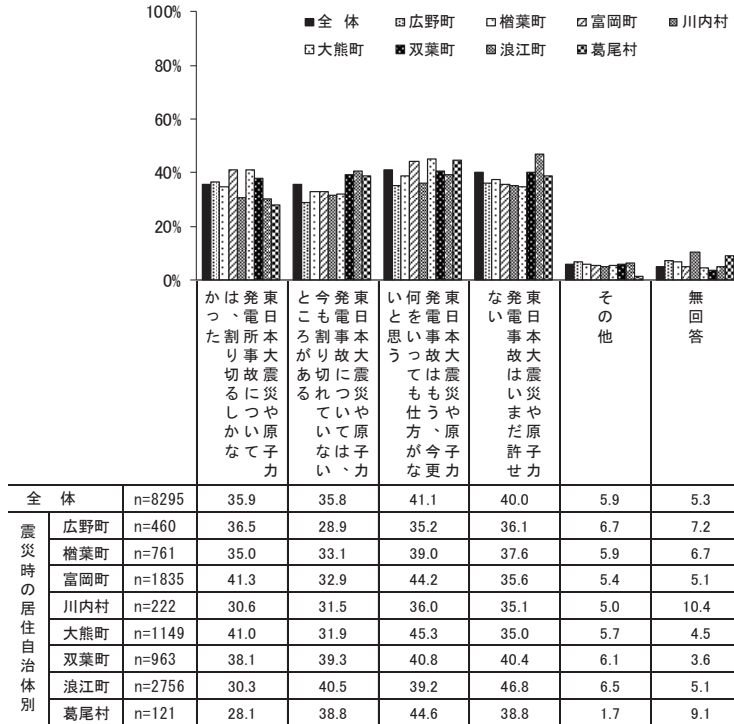


図 8.9 東日本大震災にかんする意識

では、そうした多様な意識があるうえで、住民は復興についてどのように考えているのか。そこで、「復興」についてどう思いますかと複数回答で問うた。その結果が図 8.10 である。

最も多かった回答が「震災後の地域の荒廃した状況は悲しかった」で 57.6%であった。川内村を除くすべての町村でも最もこの回答が多かった。一方の川内村は「早く復興して欲しいと思う」が 52.3%と最も多かった。同じ双葉郡であっても若干の温度差がここにもみえた。また、「震災前にはもう戻れないというあきらめがある」という回答について、広野町と川内村は低いが、それ以外の町村ではおおかった。同様に、市町によって差がみられるのは「復興後の具体的なイメージがわからない」や「震災前とは違う場所になっているという感覚がある」といった回答であった。特に前者においては、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町といった避難指示解除が遅くなった市町だけではなく、葛尾村が 43.8%と高かった。なぜこのような回答が多くなったのか、さらなる葛尾村の実情について詳細な分析が必要と考えられる。

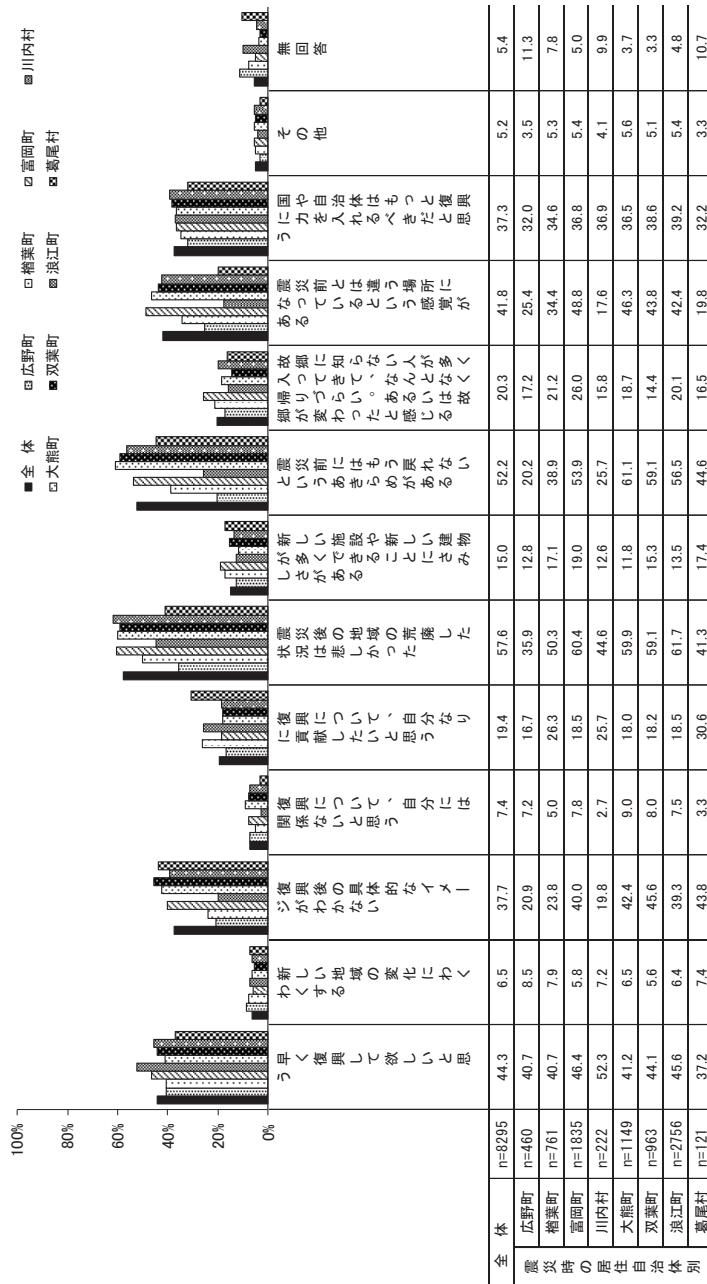


図 8.10 復興にかんする意識

また、「震災から10年をふりかえって、あなたの気持ちにあるものに○をつけてください」と複数回答で問うた結果が図 8.11 である。多様な意見の分布がみられるが、特に、「原子力発電に反対だ」「賠償制度に納得いかない」「国が定めた制度やルールに不満がある」「町や村はもっと住民の声を聞いてほしい」という回答がいずれの市町でも多かったこと

から、行政に対する不満が非常に大きいことが明らかである。この東日本大震災からの10年における行政の施策の課題と言える。

8.5 復興施策にかんする意識

最後に、具体的な復興施策についての意識を問うた結果である。

「震災から10年にわたる国や自治体による復興政策について、あなたの思いと一番近いもの」は何かを問うた結果が図8.12である。

「復興が進んでいると感じる」と回答したのは全体の1割程度であった。特に広野町、楡葉町、川内村ではこの回答者が他の町村よりも多い傾向であった。「やや復興が進んでいると感じる」と回答した人は4割弱であり、この層は町村別であまり差がみられなかった。「復興が進んでいないと感じる」人は全体の1割程度であるが、特に、双葉町ではその割合が多かった。まだ帰還困難区域を多く抱えていた状況では中々、復興が進んでいるとは言い難いであろう。

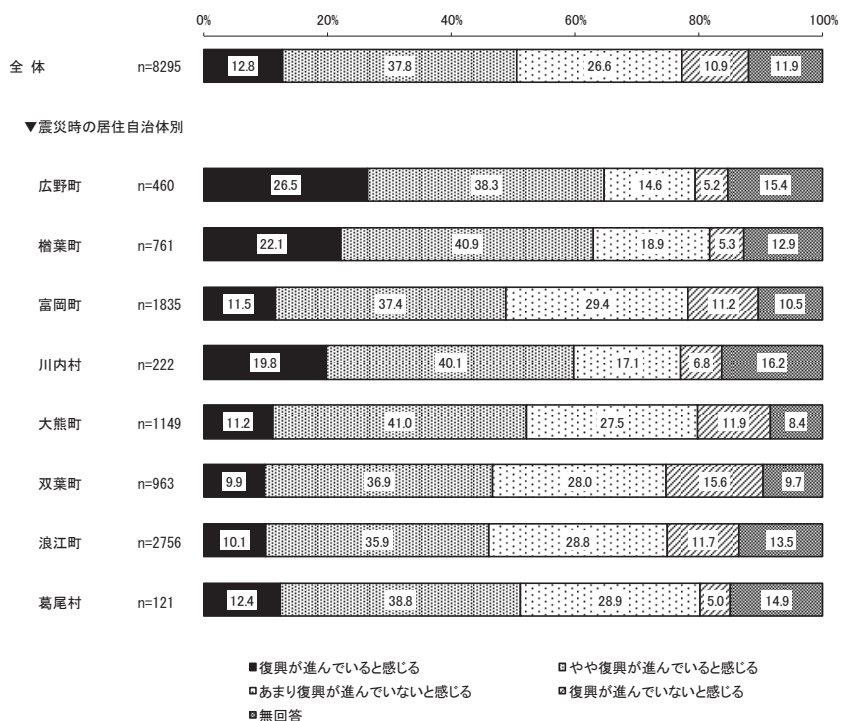


図 8.12 復興施策に対する評価

また、「政府は2021年8月31日に、『特定復興再生拠点区域外への帰還・居住に向けた避難指示解除に関する考え方』を示し、特定復興再生拠点区域外の避難指示解除について、

『2020年代をかけて、帰還意向のある住民が帰還できるよう、避難指示解除の取組を進めてい』としました。これについてあなたのご意見を聞かせてください」と問うた。その結果が図8.13である。若干、「妥当だと思う」という回答が多かった。ただし、大熊町、双葉町、浪江町は他の市町と比較すると「妥当だとは思わない」という反対の意見が多かった。

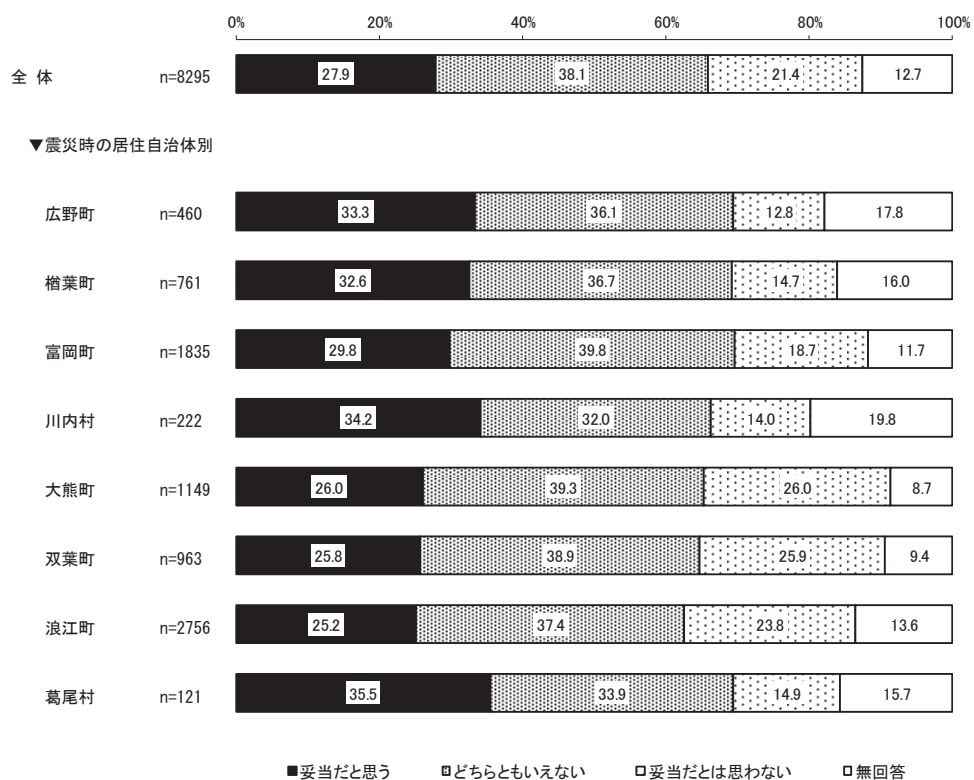


図 8.13 避難指示解除に関する意見

では、最後に今後の双葉郡の復興政策で何が重要と思うかを複数回答で問うた。その結果が図8.14である。

回答者が高齢層に偏っていることもあり、「高齢者施設や医療施設の整備・充実」がいずれの町村でも多かった。次いで、「若い世代の働き先の確保」もおおいことから、双葉郡の復興において、働く先が何よりも重要であると考えられていた。その一方で、「イノベーション・コースト構想などによる企業誘致や新産業の育成」や「国際教育研究拠点などの整備」といった現在、進められている国のプロジェクトはあまり、地元の人たちにとって重要とは思われていないようである。その必要性を地元の人にもアピールすることも求められるであろう。

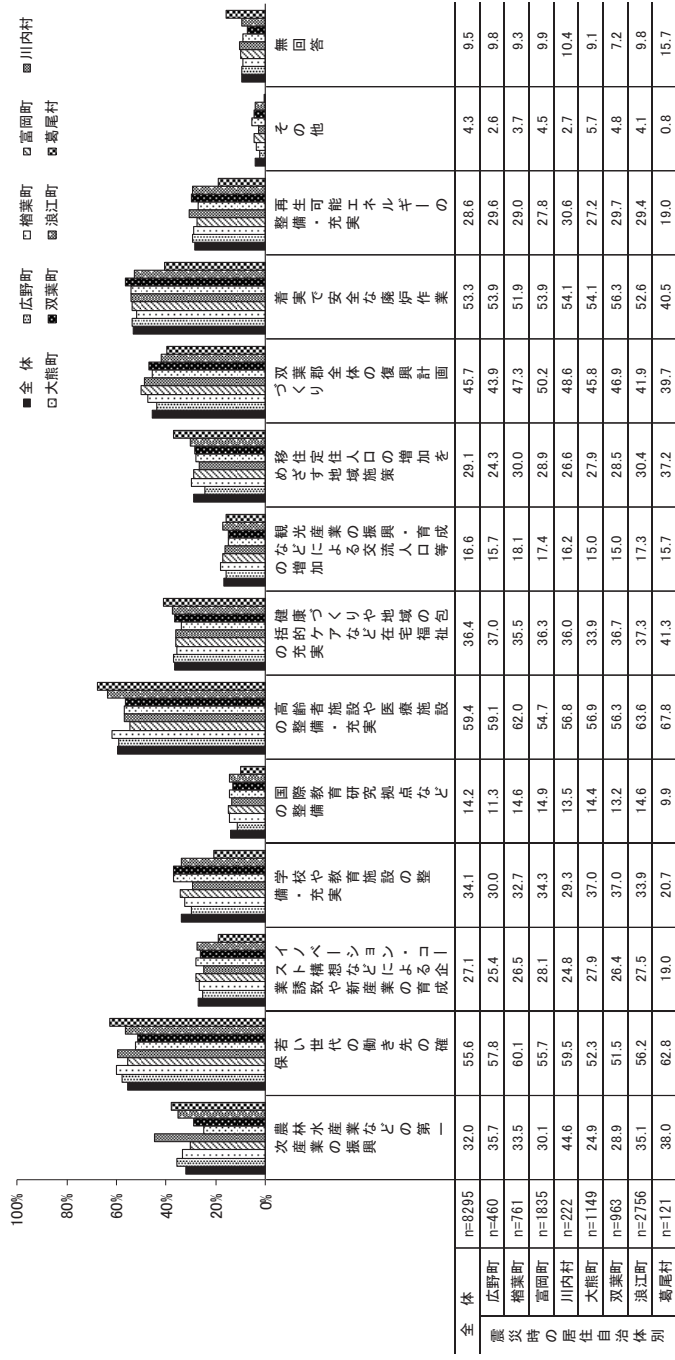


図 8.14 今後の双葉郡の復興政策で重要と思うこと

附属資料（アンケート調査の単純集計）

なお、下記は特段の記載がない限り、N=8,295 である。

また、レイアウトは一部、変更している。

1) 世帯の状況

問1 あなたご自身についておたずねします。性別と年齢をお答えください。

(1) 性別

1 男性 69.5%	2 女性 29.8%
------------	------------

 無回答 0.8%

(2) 年齢 満

--

 歳（※2021年12月1日現在）（平均 66.3歳）
無回答 1.3%

(3) あなたの職業についておたずねします。震災前のお仕事はどれにあたりますか。
(○は1つ)

1 正規の職員・従業員	38.2%
2 派遣社員	1.0%
3 パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）	8.2%
4 会社などの役員	4.4%
5 自営業主（自由業を含む）	11.5%
6 家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）	4.0%
7 内職	0.5%
8 無職（主婦・主夫を含む）	27.6%
9 学生	1.1%
10 その他（具体的に：_____）	2.2%
無回答	1.3%

【問1(3)で「1～6」とお答えの方に】n=5,584

(4) 震災前のお仕事の業種をお答えください。(○は1つ)

1 農林漁業	9.5%
2 建設業	22.5%
3 製造業	10.2%
4 電気・ガス・水道業	10.8%
5 運輸・通信業	3.4%
6 卸売・小売・飲食店	7.2%
7 金融・保険業	1.5%
8 不動産業	0.7%
9 サービス業	16.8%
10 公務	7.8%
11 その他（具体的に：_____）	7.0%
無回答	2.6%

【全員の方におたずねします】

(5) 現在のお仕事はどれにあたりますか。(〇は1つ)

1	正規の職員・従業員	19.0%
2	派遣社員	0.6%
3	パート・アルバイト（契約社員、嘱託を含む）	8.4%
4	会社などの役員	3.4%
5	自営業主（自由業を含む）	6.0%
6	家族従業者（農家や商店など自営業主の家族）	1.6%
7	内職	0.4%
8	無職（主婦・主夫を含む）	55.4%
9	学生	0.2%
10	その他（具体的に：_____）	1.5%
	無回答	3.4%

【問1(5)で「1～6」とお答えの方に】 n=3,247

(6) 現在のお仕事の業種をお答えください。(〇は1つ)

1	農林漁業	8.9%
2	建設業	22.5%
3	製造業	9.0%
4	電気・ガス・水道業	9.6%
5	運輸・通信業	3.5%
6	卸売・小売・飲食店	5.5%
7	金融・保険業	1.1%
8	不動産業	1.6%
9	サービス業	17.0%
10	公務	9.2%
11	その他（具体的に：_____）	9.4%
	無回答	2.7%

【全員の方におたずねします】

問2 あなたのご家族についておたずねします。

(1) 震災前に同居されていた方は、
あなたを含めて何人でしたか。

人

(平均 3.4 人) 無回答 1.3%

(2) 現在、同居されている方は、
あなたを含めて何人ですか。

人

(平均 2.5 人) 無回答 2.5%

2) 住居

問3 あなたの住居についておたずねします。

(1) 震災時(2011年3月11日当時)の住居はどちらですか。(〇は1つ)

1	広野町	5.5%
2	楡葉町	9.2%
3	富岡町	22.1%
4	川内村	2.7%
5	大熊町	13.9%
6	双葉町	11.6%
7	浪江町	33.2%
8	葛尾村	1.5%
9	双葉郡には当時住んでいなかった	-
	無回答	0.3%

(2) 現在、あなたはどこにお住まいですか。(〇は1つ)

1	震災時に住民票のあった自治体	21.5%
2	震災時とは異なる福島県内の自治体(都道府県・市町村名:)	55.3%
3	震災時とは異なる福島県外の自治体(都道府県・市町村名:)	21.5%
	無回答	1.7%

(3) 現在の住居についておたずねします。現在の住居の種類として、最も近いもの1つに〇をつけてください。(〇は1つ)

1	購入・再建した持ち家(集合住宅を含む)	60.0%
2	元々住んでいた持ち家(集合住宅を含む)	13.1%
3	仮設住宅(プレハブ・木造仮設)	-
4	借上げ住宅(みなし仮設住宅)	1.8%
5	自己負担の賃貸住宅(公営住宅を除く)	6.6%
6	復興公営住宅(災害公営住宅)	10.0%
7	その他の公営住宅	1.2%
8	社宅・寮・官舎	1.0%
9	親戚・知人宅	1.8%
10	その他(具体的に: _____)	3.0%
	無回答	1.5%

(4) あなたは現在、震災時の住居にお住まいですか。(〇は1つ)

1	震災時の住居に住んでいない ⇒ 問3(5)へ	88.3%
2	震災時の住居に住んでいる ⇒ 問3(8)へ	15.3%
	無回答	1.5%

【問3(4)で「1 震災時の住居に住んでいない」とお答えの方に】 n=6,906

(5) 震災時の住居の状況についてお聞きします。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。(○は1つ)

1	問題なく居住することができる	8.8%
2	修理しないと住めない状態	10.9%
3	建て替えないと住めない状態	9.6%
4	取り壊した	51.1%
5	その他(具体的に: _____)	14.8%
	無回答	4.7%

(6) あなたは震災時の住居にどれくらいの頻度で通われていますか。次の中から最も近いもの1つに○をつけてください。(○は1つ)

1	ほぼ毎日	1.6%
2	週2～3回程度	2.0%
3	週1回程度	2.0%
4	月2～3回程度	5.2%
5	月1回程度	9.1%
6	2～3ヶ月に1回程度	12.3%
7	半年に1回程度	16.2%
8	年に1回程度	12.2%
9	ほぼない	32.2%
	無回答	7.2%

(7) あなたは元の居住地に戻ろうとお考えですか。あなたの考えに近いもの1つに○をつけてください。(○は1つ)

1	近年中に戻りたい	2.5%
2	将来、戻りたい	7.8%
3	まだ明確ではない/悩んでいる/わからない	18.6%
4	戻る気はない/戻れない	64.8%
5	その他(具体的に: _____)	1.6%
	無回答	4.6%

 [問4\(4ページ\)へ](#)

【問3(4)で「2 震災時の住居に住んでいる」とお答えの方に】 n=1,267

(8) 現在の住居の修理や再建の状況についてお聞きします。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。(○は1つ)

1	震災時のまま、修理しないで住んでいる	17.4%
2	震災後、修理をして住んでいる	64.1%
3	震災後、建て直して住んでいる	12.0%
4	その他(具体的に: _____)	0.8%
	無回答	5.7%

3) 健康・福祉

【全員の方におたずねします】

問4 ここからは、心身の健康についてお伺いします。

(1) あなたの健康状態は、いかがですか。(○は1つ)

1	良い	10.6%
2	やや良い	6.4%
3	ふつう	44.9%
4	やや悪い	22.9%
5	悪い	6.9%
	無回答	8.2%

(2) 以下のA～Eについて、最近2週間のあなたの状態に最も近い番号を「1」から「6」の中から選んでそれぞれ1つずつ○をつけてください。(○はA～Eそれぞれ1つずつ)

	最近2週間、 私は・・・	いつも	ほとん ど いつも	半分以上の期 間を	半分以 下の期 間を	ほんの ために	まった くない	無回答
A	明るく、楽しい気 分で過ごした	6.0%	18.7%	25.2%	16.2%	20.4%	7.8%	5.7%
B	落ち着いた、 リラックスした 気分で過ごした	6.2%	20.8%	25.8%	16.7%	17.3%	7.4%	5.7%
C	意欲的で、活動的 に過ごした	5.5%	16.6%	22.5%	16.4%	19.6%	13.3%	6.2%
D	ぐっすりと休め、 気持ちよくめざめ た	5.8%	17.9%	22.2%	17.4%	20.2%	10.7%	5.8%
E	日常生活の中に、 興味のあること がたくさんあつ た	5.1%	12.8%	21.5%	14.2%	27.3%	13.4%	5.7%

4) 経済的な問題

問5 経済的な問題についておたずねします。

(1) 現在の生活設計は何でやりくりされていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(〇はいくつでも)

1	勤労収入	34.2%
2	事業収入	4.7%
3	年金・恩給	59.3%
4	預貯金	34.1%
5	借金	0.9%
6	賠償金	18.9%
7	生活保護	0.5%
8	その他(具体的に_____)	3.0%
	無回答	1.5%

(2) 今後の生活について、あなたは経済的に不安を感じていますか。(〇は1つ)

1	とても不安を感じている	24.8%
2	ある程度不安を感じている	38.6%
3	どちらともいえない	15.6%
4	あまり不安を感じていない	16.1%
5	まったく不安を感じていない	3.1%
	無回答	1.9%

(3) あなたは、東京電力から賠償金を受け取っていますか。(〇は1つ)

1	現在も賠償金を受け取っている	5.1%
	具体的に： _____	
	(例) 営業損害賠償	
2	過去に受け取ったが、現在は受け取っていない	88.5%
3	全く受け取っていない	2.6%
4	その他(具体的に：_____)	1.3%
	無回答	2.5%

5) 生活

問 6 現在の暮らしについてお伺いします。

(1) あなたは現在の生活においてお困りのことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1	仕事や事業	16.3%
2	生活費	29.2%
3	健康や介護	50.1%
4	家族関係	14.1%
5	住居	10.5%
6	放射線の影響	9.0%
7	子どもの学校	3.6%
8	周りの人との人間関係	22.0%
9	新型コロナウイルス感染症にともなう生活の変化	40.3%
10	その他(具体的に: _____)	3.5%
11	特に困っていることはない	16.0%
	無回答	2.2%

(2) あなたの生活時間についておたずねします。以下のA~Gの活動は、震災前と比べて増えましたか、それとも減りましたか。「1」から「5」までのあてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。(○はA~Gそれぞれ1つずつ)

	とても 増えた	少し 増えた	あまり 変わらない	少し 減った	とても 減った	無回答
A 睡眠	4.2%	10.3%	45.2%	24.1%	13.5%	2.8%
B 仕事	5.0%	5.6%	22.0%	11.4%	40.3%	15.7%
C 移動 (通勤・通学を除く)	15.6%	10.1%	22.7%	11.1%	24.9%	15.7%
D テレビ・ラジオ ・新聞・雑誌	14.4%	19.6%	41.9%	11.1%	8.0%	5.0%
E 趣味・娯楽	3.3%	11.4%	31.8%	20.4%	28.0%	5.1%
F 交際・つきあい	1.5%	4.8%	19.4%	23.0%	47.2%	4.1%
G 受診・療養	21.4%	31.8%	33.8%	5.3%	4.0%	3.7%

(3) のA～Jにあげるものについて、あなたはどれくらい信頼していますか。「1」から「4」までのあてはまる番号にそれぞれ**1つずつ**○をつけてください。(○はA～Jそれぞれ**1つずつ**)

	信頼している	やや信頼している	あまり信頼していない	信頼していない	無回答
A 政府	4.0%	23.9%	43.7%	24.6%	3.8%
B 都道府県	8.0%	43.7%	33.0%	10.3%	5.0%
C 市町村	14.2%	46.5%	26.4%	8.5%	4.4%
D 新聞	11.4%	50.0%	26.8%	6.7%	5.2%
E テレビ	9.4%	45.5%	32.2%	8.0%	4.9%
F 病院	27.3%	54.8%	11.7%	2.0%	4.2%
G 裁判所	11.4%	40.9%	27.8%	9.2%	10.8%
H 学者・研究者	9.0%	42.9%	29.2%	9.1%	9.9%
I 金融機関	11.6%	45.6%	28.5%	6.6%	7.7%
J 東京電力	3.7%	18.2%	33.8%	39.7%	4.6%

(4) 過去1年間、必要な時に心配事を聞いてくれた人はいますか。**あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)**

1 同居家族	59.4%
2 その他の親族	35.6%
3 職場の人	11.0%
4 近所の人	8.6%
5 友人	36.5%
6 専門職の人(医師・カウンセラー、ヘルパーなど)	16.0%
7 ボランティアの人	3.4%
8 自治体職員	7.9%
9 心配事がなかった	3.4%
10 聞いてくれる人はいなかった	6.9%
11 その他(具体的に：_____)	1.4%
無回答	2.8%

問7 次の8つの項目について、あてはまる時期があれば、それぞれ例にならって矢印で下記にご記入ください。なお、それぞれそのような時期がなかった場合には書かなくてかまいません。

(※省略)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
例 避難所にいた期間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
A 体調がよくなかった／よくない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
B 精神的に不安定だった／不安定だ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
C 被ばくへの不安が強かった／強い	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
D 人間関係がギクシャクしていた／している	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
E 家、生活、思い出など失った過去への喪失感が強かった／強い	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
F ふるさとを失った喪失が強かった／強い	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
G 将来の生活への不安が強かった／強い	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
H 廃炉や地域の復興への強かった／強い	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

問8 以下のA～Kの項目について、現在のあなたのお考えにあてはまるものを、「1」から「5」までのあてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。(○はA～Kそれぞれ1つずつ)

	は強くあて はまる	はやあて はまる	いもど ええちら ないらと	あてはま らない	あまり あてはま らない	まったく あてはま ない	無回答
A 被ばくによる自分の将来の健康が不安だ	7.4%	13.9%	29.4%	27.5%	15.9%	5.8%	
B 被ばくによる子、孫の将来の健康が不安だ	14.2%	21.2%	21.0%	18.4%	17.1%	8.2%	
C 自分、子、孫などの結婚、出産など被ばくに関する差別・偏見が不安だ	11.2%	21.0%	24.0%	19.5%	15.5%	8.8%	
D 低線量被ばくによる健康への影響がはっきりわからないことが不安だ	13.3%	24.0%	24.2%	17.6%	12.3%	8.6%	
E 家族・親戚とのつながり、交流が薄くなった	29.6%	31.4%	15.2%	11.5%	7.4%	4.9%	
F 長年の友人・知人などとのつながり、交流が薄くなった	35.2%	34.8%	12.2%	8.5%	4.6%	4.7%	
G 地域のつながり、交流が薄くなった	40.2%	31.5%	13.4%	6.3%	3.6%	5.0%	
H 愛着ある家に帰れず、つらい	24.1%	18.7%	19.3%	12.9%	17.3%	7.7%	
I 家族の離別などにより家族の団らんや会話が失われて、つらい	17.0%	22.3%	19.8%	16.7%	16.4%	7.8%	
J 家や庭、田畑が荒れ放題になってしまつて、つらい	28.1%	19.4%	13.5%	12.3%	18.6%	8.1%	
K 震災前の趣味ができなくなつてしまつて、つらい	20.7%	22.7%	20.1%	15.7%	14.7%	6.1%	

問9 以下のA～Jの項目について、現在のあなたのお考えにあてはまるものを、「1」から「5」までのあてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。(○はA～Jそれぞれ1つずつ)

	は強くあて はまる	はやあて はまる	いもど ええちら ないらと	あてはま らない	あまり あてはま らない	まったく あてはま ない	無回答
A 愛着ある町、村に帰れないのでつらい	20.1%	21.9%	20.7%	13.5%	17.6%	6.2%	
B 仕事(生業)や畑仕事を失つてしまつてつらい	15.6%	16.6%	17.6%	17.5%	24.2%	8.6%	
C 町、村が荒れ放題になってしまつてつらい	23.2%	26.5%	18.8%	12.0%	12.8%	6.7%	
D 本当に帰ることができるのか不安だ	14.3%	12.5%	22.5%	16.4%	25.4%	8.8%	
E 将来的に(長期的に)多くの人が帰還するか不安だ	19.3%	19.2%	23.7%	14.4%	15.2%	8.1%	
F 公営住宅など知らないところに移ることが不安だ	8.5%	9.7%	18.3%	14.3%	37.2%	12.1%	
G これからを前向きに考えることができず不安だ	11.7%	18.1%	26.6%	17.6%	18.3%	7.8%	
H 土壌や空間線量を考えると安全に暮らすことができるかどうか不安だ	15.6%	19.2%	22.1%	17.2%	17.9%	8.0%	
I 原発の廃炉までに事故が起きないかどうか不安だ	31.7%	25.2%	16.9%	9.9%	9.9%	6.3%	
J 中間貯蔵施設、廃棄物処理施設などの安全性について不安だ	33.0%	25.4%	17.2%	9.0%	9.5%	6.0%	

問 10 震災に関連して、「1」から「3」までのあてはまる番号をA～Mにそれぞれ1つずつ○をつけてください。(○はA～Mそれぞれ1つずつ)

	昔も今も感じ たことはない	昔は感じたが 今は感じてい ない	昔も今も感じ ている	無回 答
A 直接、差別や偏見を受けた	29.5%	44.4%	19.0%	7.1%
B メディアで差別や偏見を感じた	26.9%	46.0%	17.8%	9.3%
C うわさ話で差別や偏見を感じた	22.3%	47.0%	22.6%	8.1%
D 出身地を言いづらいことがあった	26.1%	33.3%	33.4%	7.2%
E 被災者、避難者として扱われるのが嫌だ	22.9%	34.7%	34.2%	8.1%
F 東日本大震災や原子力災害について、話題にされることが嫌だ	29.3%	36.7%	26.1%	7.8%
G 東日本大震災や原子力災害について、周囲の無関心さが問題だ	22.0%	31.0%	38.3%	8.7%
H 自分の避難のことについて言われるのは嫌だ	28.7%	35.0%	28.4%	7.9%
I 放射線リスクについて気にすることがある	22.4%	40.8%	28.9%	7.8%
J 実際のところ自分の体へのリスクがわからない	25.0%	34.7%	31.8%	8.5%
K 震災がなければ、今とは違う人生や進路だったと思う	11.7%	19.4%	61.4%	7.5%
L 避難先で新しい人間関係をつくるのが大変だった	24.1%	30.8%	37.6%	7.5%
M 家族が喪失感を抱えていて大変だった	26.0%	40.9%	24.1%	9.0%

問 11 あなたは「地元」についてどう思いますか。(○はいくつでも)

1 地元に着がある	56.8%
2 地元が恋しい	25.1%
3 地元が懐かしい	49.2%
4 地元の思い出の場所がなくなるのは寂しい	46.4%
5 震災や事故がなければずっと地元でいたかもしれないと思う	68.1%
無回答	6.0%

問 12 東日本大震災や原子力災害関係の放送番組や新聞記事、インターネットのニュースについてどう思いますか。(〇はいくつでも)

1	東日本大震災や原子力災害が取り上げられるということは良いことだと思う	69.5%
2	東日本大震災や原子力災害について、もっと関心をもつべきだと思う	56.3%
3	東日本大震災や原子力災害について、べつに何を報道されても気にしない	22.0%
4	東日本大震災や原子力災害の情報は積極的に見る	48.5%
5	東日本大震災や原子力災害の情報は特別避けたりはしない	49.8%
6	東日本大震災や原子力災害の情報を見るのが嫌である	7.9%
7	東日本大震災や原子力災害の情報が伝えられ続けることに意味があると思う	63.6%
8	東日本大震災や原子力災害について、未だ放射線の危険性を指摘する情報があり問題だと思う	22.0%
9	東日本大震災や原子力災害について、未だ安全性に関わる情報を伝えていること自体問題だと思う	15.1%
10	取り上げられるのはよいが、さまざまな人が東日本大震災や原子力災害について、あまり知らないまま意見を述べているのは問題だと思う	49.8%
11	その他(具体的に: _____)	4.6%
	無回答	5.1%

問 13 東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故についてどう思いますか。(〇はいくつでも)

1	東日本大震災や原子力発電所事故については、割り切るしかなかった	35.9%
2	東日本大震災や原子力発電事故については、今も割り切れていないところがある	35.8%
3	東日本大震災や原子力発電事故はもう、今更何をいっても仕方がないと思う	41.1%
4	東日本大震災や原子力発電事故はいまだ許せない	40.0%
5	その他(具体的に: _____)	5.9%
	無回答	5.3%

問 14 「復興」についてどう思いますか。(〇はいくつでも)

1	早く復興して欲しいと思う	44.3%
2	新しい地域の変化にワクワクする	6.5%
3	復興後の具体的なイメージがわからない	37.7%
4	復興について、自分には関係ないと思う	7.4%
5	復興について、自分なりに貢献したいと思う	19.4%
6	震災後の地域の荒廃した状況は悲しかった	57.6%
7	新しい施設や新しい建物が多くできることにさみしさがある	15.0%
8	震災前にはもう戻れないというあきらめがある	52.2%
9	故郷に知らない人が多く入ってきて、なんとなく帰りづらい。 あるいは故郷が変わったと感じる	20.3%
10	震災前とは違う場所になっているという感覚がある	41.8%
11	国や自治体はもっと復興に力を入れるべきだと思う	37.3%
12	その他(具体的に: _____)	5.2%
	無回答	5.4%

問 15 今後の復興施策に関わることがらについてお聞きします。

(1) 今後の双葉郡の復興施策について、あなたが**重要だ**と思うものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

1	農林水産業などの第一次産業の振興	32.0%
2	若い世代の働き先の確保	55.6%
3	イノベーション・コスト構想などによる企業誘致や新産業の育成	27.1%
4	学校や教育施設の整備・充実	34.1%
5	国際教育研究拠点などの整備	14.2%
6	高齢者施設や医療施設の整備・充実	59.4%
7	健康づくりや地域の包括的ケアなど在宅福祉の充実	36.4%
8	観光産業の振興・育成などによる交流人口等の増加	16.6%
9	移住定住人口の増加をめざす地域施策	29.1%
10	双葉郡全体の復興計画づくり	45.7%
11	着実に安全な廃炉作業	53.3%
12	再生可能エネルギーの整備・充実	28.6%
13	その他（具体的に：_____）	4.3%
	無回答	9.5%

(2) 政府は2021年8月31日に、「特定復興再生拠点区域外への帰還・居住に向けた避難指示解除に関する考え方」を示し、特定復興再生拠点区域外の避難指示解除について、「2020年代をかけて、帰還意向のある住民が帰還できるよう、避難指示解除の取組を進めていく」としました。これについてあなたのご意見を聞かせてください。(〇は1つ)

1	妥当だと思う	27.9%
2	どちらともいえない	38.1%
3	妥当だとは思わない	21.4%
	無回答	12.7%

(3) 問 15 (2) の理由をお聞かせください。

省略

(4) 中間貯蔵施設および除去土壌等の最終処分、および廃炉などについてご自身のお考えをお聞かせください。

省略

問 16 震災から 10 年をふりかえって、あなたの気持ちにあるものに○をつけてください。

(○はいくつでも)

1	新しい町や村の姿に期待している	33.6%
2	故郷を取り戻したいと思う	20.8%
3	故郷には帰れないとあきらめている	37.1%
4	故郷に戻る判断が今でも出来ない	18.5%
5	避難先での復興を考えるべきだ	12.3%
6	震災後しばらくは後ろ向きな気持ちであったが、いまは前向きな気持ちに変わった	18.9%
7	故郷に戻ることができて安心している	9.6%
8	福島県に対して、震災後のネガティブなイメージが残っていると思う	22.2%
9	今でも双葉郡からの避難者に対する冷たい視線を感じる	22.6%
10	今でも福島県民であることで差別されないか不安がある	16.6%
11	自分たちの生き方が尊重されていないと感じる	11.7%
12	10 年が経過しても喪失感や不安感が大きい	31.8%
13	10 年が経過しても気持ちに区切りがつけられない	24.2%
14	震災のことを思い出すのがストレスである	21.1%
15	震災の経験をしたうえで、前向きな気持ちがある	18.0%
16	原子力発電に反対だ	34.1%
17	賠償制度に納得いかない	38.0%
18	国が定めた制度やルールに不満がある	31.3%
19	町や村はもっと住民の声を聞いてほしい	22.9%
20	その他 (具体的に: _____)	3.9%
	無回答	6.1%

問 17 現在のあなたのお考えについてお伺いします。

(1) あなたは、将来の自分の仕事や生活に希望がありますか。(○は1つ)

1	大いに希望がある	3.1%
2	希望がある	13.8%
3	どちらともいえない	34.0%
4	あまり希望がない	27.5%
5	まったく希望がない	14.3%
	無回答	7.2%

- (2) 以下のA～Cの3つの項目について、「1」から「5」までのあてはまる番号をA～Cにそれぞれ**1つずつ**○をつけてください。(○はA～Cそれぞれ**1つずつ**)
- (3) 前問(2)で「1」「2」とお答えの方におうかがいします。それはいつ頃からですか。

(2)「1」～「5」の番号に 1つずつ ○をつけてください。	強くあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	【(2)でそれぞれ「1」「2」とお答えの方に】 (3)それはいつ頃からですか。 (年は西暦でご記入ください)
A 震災直後と比べると、落ち着いてきた	7.8%	22.6%	27.9%	6.7%	3.1%	32.0%	西暦 _____年 月頃から
B 将来の自分自身の生活を考えなければと思うようになった	11.9%	17.3%	27.2%	7.9%	2.7%	32.9%	西暦 _____年 月頃から
C 将来の町・村の未来を考えなければと思うようになった	3.3%	7.5%	33.8%	14.1%	7.0%	34.3%	西暦 _____年 月頃から

- 問 18 震災から10年にわたる国や自治体による復興政策について、あなたの思いと一番近いものに○をつけてください。(○は**1つ**)

1 復興が進んでいると感じる	12.8%
2 やや復興が進んでいると感じる	37.8%
3 あまり復興が進んでいないと感じる	26.6%
4 復興が進んでいないと感じる	10.9%
無回答	11.9%

- 問 19 東日本大震災・福島第一原子力発電所事故からの10年を振り返って、あなたの思い／意見／提案などがあれば、ぜひお書きください。

省略